SYLLABUS

2023 年度 春学期

3年次

青森公立大学

経営経済学部

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
教養科目		仏教の思想	(4)	選必	松本　知己	1
		メディアとジャーナリズム	(2)	選必	河田　喜照　ほか	5
		民法	(4)	選必	【非開講】	—
キャリア教育科目		事業論Ⅱ	(1)	選必	小田切　勇治　ほか	8
専門科目	経営学科	グローバル経営論	(2)	選必	小林　哲也	10
		会社法Ⅰ	(2)	選必	白石　智則	13
		組織学習論	(2)	選択	丁　圏鎮	16
		監査論	(4)	選択	紫関　正博	19
		税務会計Ⅰ	(2)	選択	金子　輝雄	23
		財務戦略	(2)	選択	長谷川　美千留	26
		経営情報論　注１	(2)	選択	*（調整中）*	74
		商業実習	(4)	選択	砂場　孝一郎	29
		地域企業論Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	生田　泰亮	83
		地域社会論Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木　てる	86
		環境経済学　【他学科展開科目】	(2)	選択	青山　直人	33
		地域経営論　【他学科展開科目】	(2)	選択	足達　健夫	36
	経済学科	金融経済学Ⅱ	(2)	選必	國方　明	39
		地域経済学	(4)	選必	樺　克裕	42
		産業組織論	(4)	選必	橋本　悟	46
		実証経済分析	(2)	選択	楠山　大暁	50
		環境経済学	(2)	選択	青山　直人	33
		ファイナンス理論	(2)	選択	國方　明	53
		社会保障論	(2)	選択	大矢　奈美	56
		経済特殊講義Ⅲ	(2)	選択	堤　静子	59
		会社法Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	白石　智則	13
		財務戦略　【他学科展開科目】	(2)	選択	長谷川　美千留	26

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
専門科目	地域みらい学科	会社法Ⅰ　【他学科基幹科目】	(2)	選必	白石　智則	13
		地域の産業Ⅱ	(2)	選択	松田　英嗣	62
		地域経営論	(2)	選択	足達　健夫	36
		自然史・地理情報と地域創造	(2)	選択	三浦　英樹	65
		地域みらい特殊講義Ⅱ	(2)	選択	柏谷　至	68
		経営革新論Ⅰ	(2)	選択	生田　泰亮	71
		フィールドリサーチⅡ	(2)	選択	足達　健夫	—
					生田　泰亮	
					香取　薫	
					佐々木　てる	
					長岡　朋人	
					三浦　英樹	
					安田　公治	
					遠藤　哲哉	
		財務会計論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選必	金子　輝雄	77
		マクロ経済学【他学科展開科目】	(4)	選択	巽　一樹	79

【注1】「経営情報論」は秋学期開講科目ですが、2023年度は春学期開講とします。秋学期は開講しませんので注意してください。

2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1200～」「1210～」で始まる学生）

（1）「財務会計論（4単位）」の履修について
①春学期開講の「財務会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（2）「自然史・地理情報と地域創造」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「地域ICT戦略論」の読替科目です。

（3）「経営革新論Ⅰ」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1170～」「1180～」「1190～」で始まる学生）

（1）「財務会計論（4単位）」の履修について
①春学期開講の「財務会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（2）「金融経済学（4単位）」の履修について
①春学期開講の「金融経済学Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「金融経済学Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（3）「自然史・地理情報と地域創造」は、2019年度以前入学生カリキュラム「地域ICT戦略論」の読替科目です。

（4）「経営革新論Ⅰ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
仏教の思想	4 単位	教養

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
松本知己 Matsumoto Tomomi	**時間：j 授業の前後、休み時間** **場所：教室、廊下、非常勤講師控室など。**	**講義**

〔科目の概要〕

仏教は、紀元前 5 世紀前後のインドに始まる宗教である。日本への伝来以降、社会の要請に伴って変容しながら独自の発展を遂げ、日本人の精神世界に大きな位置を占めてきた。本講義では、我々にとって「内なる他者」である仏教の思想史的な理解を目的として、その基本構造と、展開の多様性を学ぶ。

前半は、インド仏教の歴史を概観し、仏教的思考の基本について解説する。後半は、仏教文献の漢訳をはじめ、中国人による受容の特質を確認する。その上で、各時代の仏教者の思想と実践を紹介しつつ、日本仏教の形成と展開の過程を明らかにしてゆく。随時、政治状況、文化事象との関連や、神道など他思想との交渉にも言及する。全体を通じて、日本人にとって仏教とは何であったか、そして何でありうるか、ということを理解し、現代に生きる私たちと宗教との関係を考察する契機にしたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目は、信仰を前提とせずに、仏教を一つの思想、あるいは文化現象として捉え、その成立と展開を学ぶ。古来より日本文化に溶け込んでいる仏教の思想的な側面を理解することは、自身のアイデンティティを確認することにもつながる。

経済学や経営学を学ぶという点では、経済的な活動は人間の営みに他ならないので、人間に対する理解が必須となる。宗教を含む思想は、人間の精神の基盤をなす。また、世界には様々なタイプの宗教、思想が存在し、人々との関わり方も様々である。日本の伝統的な思想の構造を理解し、歴史を知ることで、宗教的、思想的背景の異なる人々の思考様式を、より深く理解することができるだろう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標
・仏教思想の基本的な構造を理解する。
・日本仏教の特質を、現代に生きる我々自身との関連で理解する。
中間目標
・インド・中国・日本における仏教の歴史的な推移を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

後方の席の受講者にも配慮して、できるだけ見やすい大きな文字で板書する。また、期末レポートの題目は、できる限り早めに告知する。

その他、要望等については柔軟に対応するよう心がける。

〔教科書〕

教科書は用いない。毎回資料を配付する。

〔指定図書〕

宮元啓一『わかる仏教史』（角川ソフィア文庫、2017）
末木文美士『日本仏教史－思想史としてのアプローチ－』（新潮文庫、1996）

〔参考書〕

平川彰『インド・中国・日本　仏教通史』〈新版〉（春秋社、2006）
蓑輪顕量編『事典　日本の仏教』（吉川弘文館、2014）

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

３分の２以上の出席を前提に、期末のレポート（60%）と平常点（40%。毎回提出してもらうリアクションペーパーのコメントなど）によって評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

Ａ　８０点以上
Ｂ　８０点未満～７０点以上
Ｃ　７０点未満～６０点以上
Ｄ　６０点未満～５０点以上
Ｆ　５０点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

仏教は世界宗教であり、歴史的にも実に多様に展開してきた。しかし思想としての基礎をふまえた上でなければ、その多様性への理解がなかなか進まない。予習は特に求めないが、毎回の講義後は、指定図書や随時紹介する参考文献を読んで、復習する時間を作ってもらいたい。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか)：　総説 内　容：　授業の概要、学習方法、評価基準などの説明 教科書・指定図書
第２回	テーマ(何を学ぶか)：　宗教類型論から見た仏教 内　容：　仏教、あるいはインドの宗教・思想と、世界の諸宗教との比較 教科書・指定図書
第３回	テーマ(何を学ぶか)：　インドの宗教・思想① 内　容：　インド宗教思想史の概観(その一) 教科書・指定図書
第４回	テーマ(何を学ぶか)：　インドの宗教・思想② 内　容：　インド宗教思想史の概観(その二) 教科書・指定図書
第５回	テーマ(何を学ぶか)：　初期仏教 内　容：　釈迦(ゴータマ・シッダールタ)の生涯と仏教の成立 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ｉ章
第６回	テーマ(何を学ぶか)：　仏教思想の基礎① 内　容：　真理観(仏教は何を目指すのか) 教科書・指定図書

第7回	テーマ(何を学ぶか)： 仏教思想の基礎② 内　容： 仏教者の集団(教団)と規則(戒律) 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)： 仏教思想の基礎③ 内　容： 仏教者が行う実践 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか)： 部派仏教 内　容： 釈迦死後の教団分裂と、諸部派の成立と展開 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 部派仏教の思想 内　容： 部派仏教の中でも最も有力な説一切有部の存在論 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章
第11回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の成立と発展 内　容： 既存の諸部派を批判しつつ興隆した「思想運動」としての大乗仏教 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の思想① 内　容： 大乗仏教経典の特徴 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の思想② 内　容： 大乗仏教の哲学的基盤となった「空」の思想 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の思想③ 内　容： 『般若心経』を読む 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の思想④ 内　容： 「空」の理論化、体系化を目指した唯識思想(その一) 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章
第16回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の思想⑤ 内　容： 「空」の理論化、体系化を目指した唯識思想(その二) 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章
第17回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の思想⑥ 内　容： 浄土教の成立と変容 教科書・指定図書
第18回	テーマ(何を学ぶか)： 大乗仏教の思想⑦ 内　容： 密教の思想と実践、あるいは仏教と現世利益 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章
第19回	テーマ(何を学ぶか)： 中国人と仏教 内　容： 儒教をはじめとする中国の思想・宗教と仏教の関係 教科書・指定図書

第20回	テーマ(何を学ぶか): 中国仏教の特徴 内　容: 中国人による仏教の受容と独自の解釈、体系化など 教科書・指定図書
第21回	テーマ(何を学ぶか): 最澄の思想 内　容: 中世以降の日本仏教の母胎となった日本天台の教学 教科書・指定図書
第22回	テーマ(何を学ぶか): 日本の密教 内　容: 空界の真言密教(東密)と天台の密教(台密) 教科書・指定図書
第23回	テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想① 内　容: 法然の専修念仏(浄土宗) 教科書・指定図書
第24回	テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想② 内　容: 法然の門流と親鸞の思想(浄土宗、浄土真宗) 教科書・指定図書
第25回	テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想③ 内　容: 日本の浄土教における二つの流れ(観念・観想の念仏と称名念仏) 教科書・指定図書
第26回	テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想④ 内　容: 日蓮の法華教学(唱題思想) 教科書・指定図書
第27回	テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想⑤ 内　容: 禅とは何か 教科書・指定図書
第28回	テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想⑥ 内　容: 道元(曹洞宗)と栄西(臨済宗) 教科書・指定図書
第29回	テーマ(何を学ぶか): 近代の知識人と仏教 内　容: 田中智学の日蓮主義と石原莞爾、宮沢賢治 教科書・指定図書
第30回	テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめ 内　容: 講義の総括、日本仏教の特徴、日本人と宗教 教科書・指定図書
試　験	期末レポートの提出。試験は実施しない。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
メディアとジャーナリズム	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
河田　喜照　他	時間: 場所:	講義

〔科目の概要〕

・この講義では、マスメディアが、その社会的使命である「ジャーナリズム」をどう実現しようとしているかオムニバス方式で解説する。東奥日報社の記者経験者や広告・販売の担当者らが登壇、現場の情報を通じてメディアとジャーナリズムに対する理解を深めてもらう。
・青森県の各メディアを紹介しながら、地域社会におけるメディアの役割を考える。
・ネット社会における情報伝達手段の変化と問題点を指摘し、メディアリテラシーを育てることにもウエートを置く。
・ロシアによるウクライナ侵攻をめぐるメディアの動きについても触れていきたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

民主主義社会において、正確な情報を市民に伝達する機能は不可欠である。その役割を担うメディアについての理解は主権者として必要な素養である。一方で、ネット社会の進展により、従来のマスメディアが担ってきた情報伝達の方法は大きく変化している。ネット空間では玉石混交の情報が飛び交い、フェイクニュースと呼ばれる虚偽情報、またフィルターバブル(自分の興味のある情報ばかりが集まる現象)などが問題になっている。かつてないほどメディアリテラシーの必要性が高まっており、その向上に役立つ機会としたい。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

中間目標
・近代におけるジャーナリズムの成立から現在にいたる歴史を知り、メディアを客観的にみる視点を育てる。
・新聞社やテレビ局などのマスメディアが果たしている社会的役割を知る。
・現場の活動を知ることで、マスメディアの機能に対する正確な知識をもってもらう。
・報道活動が抱える問題点について理解する。
・ネットメディアの進展とその落とし穴について考えてもらう。

最終目標
・われわれの社会におけるジャーナリズムの機能と問題点を理解する。
・メディアリテラシーを高め、健全な市民・社会人としての素養を身につける。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・デジタルメディアについての内容を増やす。
・成績評価の方法は事前に周知するよう努める

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし。

〔参考書〕

東奥日報、ホームページ「WEB 東奥」、「東奥日報スマホサイト」「東奥日報アプリ」、SNS など。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

中間リポートおよび最終試験を課す。

〔評価の基準及びスケール〕

学生便覧の通り:

A: 80%以上、 B : 70%以上、 C: 60%以上、 D: 50%以上、 F: 50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・新聞社やテレビ局など、いわゆるマスメディアの報道活動は、若い世代に正しく理解されていないところが多分にある。メディアに携わる人たちがどんなことを考え、どんな活動をしているのか理解してもらえるよう努力する。また Yahoo、Google など巨大 IT 企業への情報提供や SNS の進展の中で起きていることについても説明する。時事的な内容も織り交ぜながら現場の声を伝えていくので、メディアとジャーナリズムについて理解を深める機会にしてほしい。

・複数の講師によるオムニバス形式のため、都合によって講義の順番が前後することがある。あらかじめ了承していただきたい。

〔実務経歴〕

新聞記者、デジタル編集者、広告担当者、新聞販売担当者、イベント・出版担当者ら。

授業スケジュール

第1回	テーマ(はじめに): 内 容: メディアの意味やジャーナリズムの理念について。国内の主なメディアとその特性を伝え、国内・青森県内の新聞、テレビ、ラジオ、雑誌を紹介。動画を使いニュースができるまでの基本的な流れをつかんでもらう。またネットメディアによるニュースの現状と進展の状況にも触れる。 教科書・指定図書 なし
第2回	テーマ(NIB 実践1 よく分かる新聞の読み方): 内 容: NIB(ニュースペーパー・イン・ビジネス)は、仕事で役立つ新聞の活用法を紹介する取り組み。初回のテーマは新聞の読み方。新聞の見出しや紙面レイアウトにも意味、役割がある。紙面づくりのルールが分かれば、より面白く新聞を読むことができる。 教科書・指定図書 なし
第3回	テーマ(NIB 実践2 記事から学ぶ文章術): 内 容: 新聞記者はどんなことを考えながら記事を書いているのか。取材をする上で注意していることは何か。読まれる記事とはどんな記事か。紙面に掲載された記事を使って考え、簡潔な文章を書くコツを紹介する。 教科書・指定図書 なし
第4回	テーマ(ジャーナリズムの歴史): 内 容: 近代ジャーナリズムの歴史について。17 世紀のイギリスにおける市民社会の成立と新聞ジャーナリズム。日本における江戸時代の落首や瓦版の考察、明治政府の牧民思想に対する自由民権運動と新聞のかかわり、戦時中の検閲と一県一紙令、戦後のあゆみ。3 権分立とジャーナリズムの役割。 教科書・指定図書 なし
第5回	テーマ(住民に寄り添う地方紙の役割) 内 容: 地方紙は、地域との距離が近いからこそ地域の課題や良さをきめ細かく報道することができる。医療福祉分野で主に取材してきた記者の経験を踏まえ、住民と同じ目線で報道する地方紙の役割の大切さを考える。コロナ報道についても触れる。 教科書・指定図書 なし
第6回	テーマ(紙とデジタル～東奥日報の事例から): 内 容: 新聞社におけるデジタル展開の歩み。Web東奥から東奥日報アプリまで。デジタル報道の現況。自社サイト、ヤフーなど外部配信、SNSなど。新型コロナ報道とデジタル～空前のアクセスが意味するもの。紙とデジタル～「偏りのない情報摂取」のために ほか。 教科書・指定図書 なし教科書・指定図書 なし

第7回	テーマ(ネット情報とメディアリテラシー): 内　容: フェイクニュース、ディスインフォーメーションの考察。アメリカの米連邦議会乱入事件など具体的な例をもとに、ネット情報の危うい面を認識する。また SNS の使い方とフィルターバブル、エコーチェンバーなどデジタルメディアを利用する際のワナについても考える。 教科書・指定図書 なし
第8回	テーマ (新聞広告の役割と機能～事例紹介と営業について～) 内容: 「もし、広告がなかったら？」「広告もニュースである」など、新聞に掲載されている広告の分類、役割と機能を考える。事例を紹介しつつ、対象や背景、目的なども伝え、広告をより身近なものとしてとらえてもらう。新聞社における広告担当部門の組織、営業についても触れ、職業としての業務も理解してもらう。 教科書・指定図書 なし
第9回	テーマ(事件・事故と司法手続き): 内　容: 日々報道される事件や事故。報道における大きな分野だが、その取材体制はどうなっているのか舞台裏を紹介する。また逮捕や送検、起訴、裁判など司法手続きを理解することで事件・事故のニュースに対する理解を深めてもらう。 教科書・指定図書 なし
第10回	テーマ(テレビ、ラジオの報道): 内　容: 日本の放送メディアについて紹介する。放送法第 4 条の存在による新聞や雑誌、ネットメディアとの違いを知ってもらう。またニュース報道とワイドショー(ニュースを使った娯楽色の強いテレビ番組)の違い、広告で成り立つ民放の構造などについて説明し、放送メディアについてのリテラシーを高めてもらう。 教科書・指定図書 なし
第11回	テーマ(ネットの進展がもたらす変化): 内　容: ネット配信の普及によってメディアの地殻変動が起きている。テレビ番組のネット同時配信、Tver や NHK＋、Netflix などオンデマンド配信の進展、ABEMA による W 杯 2022 全試合配信などを取り上げながら激変するメディア環境について考える。 教科書・指定図書 なし
第12回	テーマ(地域ジャーナリズムの役割): 内容: 地域ジャーナリズムについて考える。ローカル記事の需要と「劇場効果」による共感性。スクープの種類、行政に対するチェック機能を知る。また地元紙が消えたアメリカの地方都市で起きたことなどを例に地域ジャーナリズムの役割をあらためて考える。 教科書・指定図書 なし
第13回	テーマ(青森県と基地): 沖縄に次いで「第2の基地県」と呼ばれる青森県。米軍・自衛隊の基地と関連施設は多数に上り、機能は複雑多岐にわたる。ロシアによるウクライナ侵略や台湾問題など「新冷戦時代」の到来が叫ばれる中、その実態を説明するとともにマスメディアがどのように報じてきたのかについて紹介する。 内　容: 教科書・指定図書 なし
第14回	テーマ(ジャーナリズムの問題点とジレンマ): 内　容: 近年、報道に対する市民の目線が厳しくなっている。「ハゲワシと少女」の写真をめぐる議論などを例にジャーナリズムが抱えるジレンマについて学ぶ。また政治的スタンスの違いと報道、集中報道への批判、実名報道と匿名報道、記者クラブの役割など、報道が抱えるジレンマ、問題点について考えてもらう。 教科書・指定図書 なし
第15回	テーマ(ジャーナリズムが守るもの) 内 容: デジタルプラットフォームや SNS がニュース媒体として台頭し玉石混交の情報があふれる中、「正しく正確な情報」「社会に資する建設的な情報」を選別して提供する必要性がますます増している。社会の公共資本としてのメディアとジャーナリズムをどう守り、新しい時代に向けて再構築をしていくべきかを考える。 教科書・指定図書 なし
試 験	中間リポートおよび期末試験を課す

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
事業論Ⅱ	１単位	キャリア教育科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
小田切　勇治 Odagiri　Yuji	時間:　－ 場所:　－	講義

〔科目の概要〕

この講義では、流通業が集積する協同組合青森総合卸センター（以下：問屋町）に勤務している講師が、実際に問屋町で営業している企業と連携してその業務内容を紹介し、それぞれの企業の取り組みを通じて、地域における流通業の役割や次世代につなげるためのさまざまな方策を考える。また自身の日々の生活との関連についてあらためて考え、自身のキャリア形成に繋げることを目的とする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

事業論Ⅰ、Ⅲ、自治行政政策論等とともに各業界・業種の理解を深め、さらにインターンシップに繋げることで自身のキャリア形成に役立てることができる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標

・問屋町の歴史、目的、事業、成果などの概要を説明できる。

・問屋町会員企業について、業種ごとの業務概要を説明できる。

最終目標

・流通業及び問屋町の役割を理解し、自身のキャリア形成に役立てる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

流通業及び問屋町について、スライド資料の見せ方も含めて、できるだけわかりやすく講義したいと思います。

〔教科書〕

配布資料

〔指定図書〕

特になし

〔参考書〕

協同組合青森総合卸センターホームページ

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

毎回の授業内レポート10％×7回、最終レポート課題２本×15％＝30％

〔評価の基準及びスケール〕

学生便覧の通り：

A: 80％以上、B:　70％以上、C: 60％以上、D: 50％以上、F: 50％未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

キャリア科目の講義として、普段みなさんが意識しない「流通業」について、実際に流通業を営む企業担当者と共に実学を中心に講義を行い、今後のキャリア形成にも役立つような授業を心掛けます。

7コマの出席を前提として最終レポート課題を設定しているので、7コマ出席できる学生の履修を望みます。特に1コマ目と7コマ目は最終レポートに大きく影響するので出席が必須です。

※参考 2022 年度協力企業
㈱マツダアンフィニ青森【自動車小売・自動車整備業】
大青工業㈱【冷熱機器製造業】
丸大堀内㈱【食料品・酒類卸】
リコージャパン㈱【文具・事務機器卸】
㈱角弘【建築資材卸】

〔実務経歴〕
流通業ほか

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 流通業について 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: (食料・飲料)(医薬・化粧品)(身の回り・繊維・衣服)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: (機械・器具)(建築材料・鉱物)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: (日用雑貨・生活関連)(文具・事務機器)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: (運輸業)(サービス業)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: (小売、冷熱機器、印刷、通信設備、建機レンタル等)に関連する業種について学ぶ。 ※第2回～第6回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 問屋町の歴史・目的・事業、これまでの総括について・ 教科書・指定図書
試 験	課題レポート(2種類)を課す

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
グローバル経営論	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
小林　哲也 こばやし　てつや	時間：初回授業時に連絡します 場所：初回授業時に連絡します	講義

〔科目の概要〕

現在，どのような国でも，単独で経済を維持できる存在はない。ほとんどの国は，他国との経済関係を構築し，経済を発展させている。経済が全地球規模で広がった社会において，多くの企業が海外でのビジネスを展開している。単に物を輸出しているところから，本格的な製品の生産やサービスの展開を行なっており，その動向は一国の経済規模を遥かに上回るまでになっている。これらの企業は，海外において成功している要因は，「競争優位」を外国でも実現し，現地での競争を優位に進めているところにある。一方で，地球上に存在する国や地域は，人種，宗教，社会環境，習慣などの点で多様であり，本国で成功したやり方が必ずしも，進出先で成功するとは限らない。では，いわゆる「グローバル企業」が世界市場において広く成功している要因は何か？本講義では，この点に焦点を当てて，グローバル企業の海外展開の状況や海外での経営の状況を確認しながら，いかにして競争優位を海外においても確立していくのかの方法を考えていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

【他の科目との関連付け】

グローバル経営は，いうまでもなく，企業「経営」を考える授業である。そのため，これまでに学生の皆さんが学んできた経営学の基礎的な領域からマーケティングや経営戦略などの専門的な領域までをベースとして学ぶ学問領域である。また，「グローバル」の名前通り，世界規模で考える必要がある上に，異文化コミュニケーションなど自らの背景とは異なる人たちとの交流や意思の疎通が求められ，これらを理解しておかなければならない。このため，本講義では，経営学の基本から発展的な領域に加え，「異文化」に関する知識や態度の基本的領域を身につけることができる。

【学んだことが，何に結びつくか】

経営学科のディプロマ・ポリシーに示された「市場はもとより，多様な環境の変化に適応するだけでなく，自らが戦略的に変革を目指し，実践できる人材」と「組織と個人の関わり合いや，組織における複雑な人間関係の問題に焦点を当てながら，多人数の協働を確立し，維持・発展できる人材」の養成に直接関係する授業であり，「会計データを読み，資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し，それに関する解決策を提示できる人材」の養成の導入部分を担う授業でもある。また，グローバル社会の進展に伴い，世界経済の動向や競争環境などを前提とすることから，これらの領域についての知識の養成や，異文化理解の重要性を考えることが出来る能力の養成にもつながる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより，多様な環境の変化に適応するだけでなく，自らが戦略的に変革を目指し，実践できる」能力と「組織と個人の関わり合いや，組織における複雑な人間関係の問題に焦点を当てながら，多人数の協働を確立し，維持・発展できる」能力の構築を目標とする。また，「会計データを読み，資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し，それに関する解決策を提示できる」能力の導入部分の構築も目標とする。これらにより，さまざまな情報を取捨選択し，自ら考え，方向性を決定できる能力の構築を目指す。また，グローバルに関する分野の学修を通じて，さまざまな背景を持つ人々との交流や意思の疎通について，相手の立場や環境を考えながらコミュニケーションが図れる能力の構築も同時に達成できるようにすることが目標である。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

担当教員にとって，初年度の授業であるため，コメント等は提示しない。

〔教科書〕

特に指定しない

〔指定図書〕

授業に関して下記の文献を参照する。

浅川和宏『グローバル経営論』日本経済新聞社，2003 年

大木清弘『コア・テキスト　国際経営』新世社，2017 年

ジェフリー・ジョーンズ著・安室憲一・梅野巨利訳『国際経営講義　多国籍企業とグローバル資本主義』有斐閣，2007 年

〔参考書〕
江夏健一・首藤信彦『多国籍企業論』八千代出版, 1993 年
奥村皓一・夏目啓二・上田慧『テキスト多国籍企業論』ミネルヴァ書房, 2006 年
五味紀男・安田賢憲『国際経営論の基礎』文眞堂, 2008 年
安室憲一『グローバル経営論』千倉書房, 1992 年
吉原英樹『国際経営』有斐閣アルマ, 1997 年
ステファン・H・ハイマー著・宮崎義一編訳『多国籍企業論』岩波書店, 1979 年
レイモンド・ヴァーノン著・霍見芳浩訳『多国籍企業の新展開―追い詰められる国家主権』ダイヤモンド社, 1973 年

〔前提科目〕
特に指定しないが, 経営学科の基礎科目を履修し, 内容を理解しておくことが求められる。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
以下の配分で評価を行う
授業時のリアクションペーパーの内容(50%)
学期末試験の結果(50%)
なお, 期末試験の内容については, 授業時に説明する。ただし, 特別の配慮が必要な方については個別に対応する。

〔評価の基準及びスケール〕
上記の内容をもとに, 以下の点数の範囲で評価を行う。
A:100～80 点, B:79～70 点, C:69～60 点, D:59～50 点, F:49 点以下

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
経営学の本格的な領域であり, 広範な地域を考える学問領域であることから, 学生の皆さんがわかりやすいよう, 具体的な事例等を使って授業を展開する。
学生の皆さんには, 授業前にシラバスをもとに, 指定図書の該当部分に目を通すなどしてあらかじめ内容に触れておくことが求められる。また, 授業後には, 授業内容を振り返り, 内容を整理するなどして, 理解に努められたい。わからないことがある場合には, 担当教員に確認するなどして, 必ず疑問を解消しておくこと。標準的な事前・事後学習の時間は, 約 3 時間である。

〔実務経歴〕
シンクタンクでの勤務実績(10 年間)

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内　容: 授業の進め方やグローバル経済とグローバル企業の関係などの概要の解説。この授業でどのような内容を学習するのかを理解できる。 教科書・指定図書 浅川 第 1 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル企業とは何か? グローバル経営の主体であるグローバル企業の定義やグローバル化の特徴などの解説。企業のグローバル活動の定義や目的を理解できる。 教科書・指定図書 浅川 第 1 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):海外直接投資 内　容:企業の本格的なグローバル活動の前提となる海外直接投資の定義や方法などの解説。海外直接投資とは何かを理解できる。 教科書・指定図書 大木 第 3 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル化の段階と形態 内　容:企業のグローバル活動の諸段階とその活動を行うための形態についての解説。企業のグローバル活動の段階とその内容が理解できる。 教科書・指定図書 大木 第 4 章, 第 8 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営戦略 内　容:グローバル戦略とマルチドメスティック戦略, ポーターの4戦略についての解説。競争環境の違いによって選択される戦略の違いを理解できる。 教科書・指定図書 浅川 第2章

第6回	テーマ(何を学ぶか)： 本社―子会社関係 内　容: グローバル経営において，本国本社が海外子会社をどのようにコントロールするかの解説。市場や進出先の状況などによって本社―子会社の関係がどのようになるのかを理解できる。 教科書・指定図書　浅川　第5章
第7回	テーマ(何を学ぶか)：グローバル統合とローカル適応 内　容:海外現地子会社の経営手法の違いについての解説。海外子会社の現地経営手法の違いを理解できる。 教科書・指定図書　浅川　第6章
第8回	テーマ(何を学ぶか)：垂直統合と国際分業 内　容:グローバル企業の国境を超えた経営における事業の選択としての垂直統合と分業についての解説。国境を超えた市場における垂直統合と分業の関係を理解できる。 教科書・指定図書　大木　第7章
第9回	テーマ(何を学ぶか)：企業と国家の関係 内　容:多国籍企業の存在か，国家によってどのように変化したのかの解説。時期による多国籍企業に対する捉え方の変化とその背景を理解できる。 教科書・指定図書　ジョーンズ　第8章
第10回	テーマ(何を学ぶか)：人材育成 内　容:海外現地子会社における人材育成とキャリアの関係，現地人材による技能育成の重要性の解説。海外における優秀な人材の育成と雇用，キャリアの関係を理解できる。 教科書・指定図書　浅川　第11章
第11回	テーマ(何を学ぶか)：リージョナルマネジメント 内　容: 進出先子会社の経営と現地子会社のコントロールについての解説。リージョナルマネジメントとは何かを理解できる。 教科書・指定図書　浅川　第12章
第12回	テーマ(何を学ぶか)：グローバル経営と文化の側面 内　容:進出先の文化の違いがグローバル企業の経営に与える影響についての解説。異文化における現地子会社経営の特徴とその方法を理解できる。 教科書・指定図書　浅川　第13章
第13回	テーマ(何を学ぶか)：トランスナショナル経営 内　容:多国籍企業の経営手法としてのトランスナショナル経営の解説。トランスナショナル経営とは何かを理解できる。 教科書・指定図書　浅川　第7章
第14回	テーマ(何を学ぶか)：グローバル経営の課題 内　容:グローバル展開を進める中で，どのような課題があり，どう解決していくのかの解説。グローバル経営の課題とその方向性を理解できる。 教科書・指定図書　浅川　終章
第15回	テーマ(何を学ぶか)：まとめとフィードバック 内　容:これまでの授業を振り返り，内容をまとめ，疑問点や課題を解消する。これまでの授業の内容をより深く理解し，疑問点を解決することができる。 教科書・指定図書
試　験	学期末試験の実施を予定

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
会社法Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
白石 智則	時間： 場所：	講義

〔科目の概要〕

本講では、「会社法２」の講義とあわせて、「会社法」（平成 17 年法律第 86 号）が定める基本的な法制度（特に株式会社の設立・株式）について学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続きパワーポイントを利用して講義を行います。

〔教科書〕
拙著 『会社法の教科書 第２版』(2023 年)
(流通ルートに乗せていない自家版の教科書です。公立大の生協で購入してください。)

〔指定図書〕
な　し

〔参考書〕
中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』(有斐閣、第２版、2021 年)
江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣、第８版、2021 年)
高橋美加ほか『会社法』(弘文堂、第３版、2020 年)
田中亘『会社法』(東京大学出版会、第４版、2023 年)
岩原紳作＝神作裕之＝藤田知敬編『会社法判例百選』(有斐閣、第４版、2021 年)
そのほかの参考文献については、最初の講義のときに紹介します。

〔前提科目〕
な　し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
授業内試験（小テスト（10%）と最終試験（90%））により評価します。
小テストを各講義日に実施します（全8回）。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を出題します。Google Formを使用して試験を行いますので、指定のURLから受験してください。
期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題します（持込不可）。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の３分の２以上出席していない者は失格とします。

〔評価の基準及びスケール〕
原則として、８０点以上をＡ、７０点以上をＢ、６０点以上をＣ、５０点以上をＤとしますが、平均点しだいで基準点を調整します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
熱意をもって受講してくれることを期待します。

〔実務経歴〕
な　し

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）:　総論（1） 内　容：企業、会社 教科書・指定図書　教科書（第１章ＩＩ）
第２回	テーマ（何を学ぶか）: 総論（2） 内　容：会社の種類 教科書・指定図書　教科書（第１章Ⅲ）
第３回	テーマ（何を学ぶか）: 総論（3） 内　容：株式会社の特徴、上場会社、会社法 教科書・指定図書　教科書（第１章Ⅳ～Ⅵ）

第４回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（1） 内　容：機関とその設計 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅰ）
第５回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（2） 内　容：株主総会とは、株主総会の招集、株主提案 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅱ１～３）
第６回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（3） 内　容：一株一議決権の原則とその例外、議決権の行使方法 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅱ４・５）
第７回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（4） 内　容：株主総会の議事・決議、株主の権利行使に関する利益供与、株主総会決議の効力を争う訴え 教科書・指定図書 教科書（第２章Ⅱ６～８）
第８回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（5） 内　容：取締役とは、取締役の選任・解任、取締役会の職務 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ１～３）
第９回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（6） 内　容：取締役会の招集・決議、代表取締役 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ４～６）
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（7） 内　容：善管注意義務・忠実義務、競業取引、利益相反取引 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ７）
第11回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（8） 内　容：取締役の報酬、監査役 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ８・Ⅳ１～３）
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（9） 内　容：監査役会、会計監査人、会計参与 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅳ４・Ⅴ・Ⅵ）
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（10） 内　容：指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅶ・Ⅷ）
第14回	テーマ（何を学ぶか）：株式会社の機関（11） 内　容：役員等の会社に対する責任、株主代表訴訟 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅸ１～３）
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（12） 内　容：役員等の会社に対する責任の免除、役員等の第三者に対する責任 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅸ４・５）
試　験	第15回の講義の日に定期試験を行います

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
組織学習論	2 単位	選択

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
丁　圏鎮	**時間:** **場所:**	WEB 講義、集中講義 ワークショップ形式

〔科目の概要〕 ： ワークショップ形式授業

個人が試行錯誤を繰り返しながら成長するのと同じく、組織も様々な状況および環境の変化に適応・対応しながら発展していく。協働体系である組織が社会の構成要素としての役割を果たすことは、社会における組織の存在意義に他ならない。特に、現代社会が求めているのは個々の組織が発展することではなく、利害関係者を含む他の組織と協力し、価値を創造しながら共生できる「持続可能な発展」を実現することである。

本科目は、社会の持続可能な発展と革新を成し遂げるために個人と組織が果たすべき役割（責任）について、理論を学び、その実践方法をワークショップ形式で学習する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

組織論をはじめ、経営戦略論、マーケティング論、会計学などの経営学科科目で学んだ知識を総合的に用いる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標:　第Ⅰ部　組織における個人の役割:知の創造
　　知識創造理論
最終目標:　第Ⅱ部　社会における組織の役割:共通価値の創造
　　ビジネスモデル理論

前半（第 1 回～第 8 回）は WEB 形式で、後半（第 9 回～第 15 回）は集中講義形式で行う。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・チーム評価と個人評価の割合を調整した。
・個人評価における適切な方法を工夫した。

〔教科書〕

なし。 資料を配布する。

〔指定図書〕

丁　圏鎮『組織設計と個人行動【増補版】』、文眞堂、2020 年。
アレックス・オスターワルダー偏著　関美和訳『バリュー・プロポジション・デザイン』翔泳社、2015 年。
野中郁次郎編『実践　ソーシャルインクルージョン』千倉書房、2014 年

〔参考書〕

野中郁次郎・勝見明『イノベーションの本質』、2004 年、日経 BP 社。
野中郁次郎・勝見明『イノベーションの作法』、2007 年、日本経済新聞出版社。
野中郁次郎・勝見明『イノベーションの知恵』、2010 年、日経 BP 社。
野中郁次郎・遠山亮子・平田透『流れを経営する』、2010 年、東洋経済新報社。

〔前提科目〕

な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・授業参加態度・成果発表50点、期末テスト50点
・チーム評価と個人評価を並行する。

〔評価の基準及びスケール〕
本学の成績評価基準に準じる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・授業中の評価もあるため、欠席せず、授業へ積極的に参加すること。
・授業時間の他に、関連情報・資料を調べることを求める場合もある。
・テストに代わるレポート評価がないため、就活などで欠席する４年生は、慎重に検討したうえで登録すること。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション 内　容:　授業の概要、進め方、ソーシャルイノベーションとは、SECI モデル 教科書・指定図書
第２回	***第Ⅰ部　　組織における個人の役割 ： 知の創造*** テーマ(何を学ぶか)：事例1 事例紹介、分析、SECI モデル作成 内　容: 教科書・指定図書
第３回	テーマ(何を学ぶか)： 事例2 事例紹介、分析、SECI モデル作成 内　容: 教科書・指定図書
第４回	テーマ(何を学ぶか)：成功事例からみられる革新的リーダーシップ 内　容: 教科書・指定図書
第５回	テーマ(何を学ぶか)： 革新的リーダーの役割 内　容: 教科書・指定図書
第６回	テーマ(何を学ぶか)：事例から学ぶ(1) 内　容: 教科書・指定図書
第７回	テーマ(何を学ぶか)：事例から学ぶ(2) 内　容: 教科書・指定図書

第8回	テーマ(何を学ぶか):「知の創造」の仕組み 内　容: 教科書・指定図書
第9回	***第Ⅱ部　社会における組織の役割 ： 共通価値の創造*** テーマ(何を学ぶか): 共通価値の創造 内　容: CSR、CSV、価値創造モデル 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):観光産業の意義と重要性 内　容: 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか): Customer Profile 作成 内　容: 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか): Value Map 作成 内　容: 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか): Business Model 作成(1) 内　容: 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):Business Models 作成(2) 内　容: 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):成果発表会 内　容: チーム別成果発表 教科書・指定図書
試 験	期末試験 内 容: 筆記テスト 教科書・指定図書

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
監査論	4 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
紫関　正博 Shiseki　Masahiro	**時間:** 授業の開始時に提示 **場所:** 研究室(512)	講義

〔科目の概要〕

企業の外部に会計情報を提供する企業の経営者は，投資家，株主，債権者などの企業の利害関係者に，企業の財務状況や経営状態を報告する。その際，企業は利害関係者に向けて，会計法規や会計基準に基づいて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成し，公表する。監査は，企業が作成した財務諸表の適切さを保証する役割を担っている。企業の利害関係者は，監査を介して初めて信頼できる企業の財務諸表を入手することができる。こうした財務諸表を監査対象とする監査（通常，「財務諸表監査」という）は，企業が作成した財務諸表上の数値（金額）が正しいものであるのかをチェックし，さらには，財務諸表を利用する投資家や株主等を保護するために，証券市場の信頼性を確立する役割を担う社会制度となっている。

監査（または財務諸表監査）制度は，企業が会計制度を通じて公表した財務諸表が適切であるか，あるいは，適法であるかをチェックする社会制度の一構成要素である。しかし，こうした役割を監査が担っているにもかかわらず，なぜ粉飾決算は繰り返されるのかを想起しておく必要がある。その原因の1つは，現代の会計がフェア・バリュー(Fair Value)を導入し，会計に将来という概念を採用することによって，財務諸表上で将来に関わる会計事象（会計の「用語」と「数値」（金額））が含まれていることにあるように思われる。確かに，監査を実施することで，企業が会計法規や会計基準に基づいて適切な財務諸表を作成したかをチェックすることができるが，将来に関する会計事象（会計の「用語」と「数値」（金額））に対してはどのように信用を与えればよいであろうか。現在，こうした問題が監査の領域で生じている。

「監査論」の前半では，主として，日本の監査制度を中心に，監査の意義，財務諸表監査，法定監査制度（会社法監査制度，金融商品取引法監査制度），監査基準の各テーマを取り上げる。「監査論」の後半では，公認会計士（監査法人）による監査の実施と報告を中心に，監査とリスク，監査報告書，監査上の主要な検討事項（KAM），近年の監査に対する社会的要請に関するテーマを取り上げる。講義では，会計監査に関わる具体的な事例についても取り上げる。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・他の科目との関連付け

「監査論」は，他の会計科目（会計学基礎論，財務会計論，財務分析Ⅰおよび財務分析Ⅱなど）と密接な関係がある。

・学ぶ必要性と学ぶことの意義

いまや会計は，ビジネスの言語として，社会人にとって，必須の知識となっている。監査についていえば，財務諸表監査を理解することは，財務諸表を作成する企業にとって，財務諸表の公表が社会に果たす役割を再認識する上で有益である。主として上場企業では，内部統制が制度化され，企業の現場に監査がますます入ってきている現状が窺える。近年は特に，監査法人のみならず，財務諸表を作成する側の企業人も，監査を十分に理解する必要性が高まっている。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

（中間目標）　会計と監査（制度）の関係に着目し，監査理論を学習し，監査制度の意義と仕組みを習得することにある。

（最終目標）　受講者自らが公認会計士の職務に従事しているような意識を持ち，監査プロセスと監査実務を理解し，監査に関わる諸問題を学習することにある。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

マイクの音量に気をつけて，聞き取りやすいように説明するよう心掛けます。講義レジュメは，重要な監査のテーマを取り上げながらも，より簡略化し，その他の関連する事項は補助資料などを用いて授業を行っていきます。近年の監査に対する社会的要請に関するテーマも取り上げて，監査の重要性を伝えたいと考えています。

〔教科書〕

伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論（九訂版）』，同文舘出版，2022 年。

〔指定図書〕

山浦久司 著『監査論テキスト〔第8版〕』, 中央経済社, 2022年。

〔参考書〕

長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門（第5版）』, 中央経済社, 2022年。
蟹江　章・井上善弘・栗濱竜一郎 編著『スタンダードテキスト監査論（第6版）』, 中央経済社, 2022年。

〔前提科目〕

前提科目はなし。「会計学基礎論」,「財務会計論」（できれば他の会計科目も）を履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

・5～6回程度, 小課題を提出してもらう。期末試験の他に, 授業中に小テストを行う。小テストの実施日は, 授業内および掲示で伝達するので, 注意すること。

〔評価の基準及びスケール〕

・小課題（10%）, 小テスト（30%）, 期末試験（60%）によって, 評価する。

（評価）			
	A: 80%以上	GPA	4.00
	B: 70%～80%未満		3.00
	C: 60%～70%未満		2.00
	D: 50%～60%未満		1.00
	F: 50%未満		0.00

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・初回の授業の際に, 評価方法の詳細を説明するので, 必ず出席すること。
・受講生の学習理解度, 授業の状況などにより, 授業スケジュールに変更が生じる場合もある。
・「監査論」の講義では, 受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持ち, 会計と監査（制度）の関係を考えてほしい。
・考えることと同時に, 覚える事柄も多くあるので, 予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には教科書, 講義レジュメを十分に読み, 授業に出席すること。
・他の学生の迷惑になる行為はくれぐれも慎むこと。まず注意をするが, ひどい場合には, 厳しく対処する。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）:監査とは何か① 内　容:監査の意義 教科書　第1章,　講義レジュメ
第2回	テーマ（何を学ぶか）:監査とは何か② 内　容:監査の生成要因と監査の種類 教科書　第1章,　講義レジュメ

第3回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク① 内　容:会計ディスクロージャーと財務諸表監査 教科書　第1章,　講義レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク② 内　容:財務諸表監査の役割 教科書　第1章,　講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク③ 内　容:監査の経済的機能 教科書　第1章,　講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):監査制度① 内　容:監査制度の生成と展開(イギリス) 教科書　第2章,　講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):監査制度② 内　容:監査制度の生成と展開(アメリカ) 教科書　第2章,　講義レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか):監査制度③ 内　容:監査制度の生成と展開(ドイツおよび日本) 教科書　第2章,　講義レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか):監査制度④ 内　容:会社法監査制度 教科書　第2章,　講義レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑤ 内　容:金融商品取引法監査制度 教科書　第2章,　講義レジュメ
第11回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑥ 内　容:公認会計士法 教科書　第2章,　講義レジュメ
第12回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準① 内　容:監査規範の意義, アメリカの監査基準の生成と展開 教科書　第3章,　講義レジュメ
第13回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準② 内　容:日本の監査基準の生成と展開(1) 教科書　第3章,　講義レジュメ
第14回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準③ 内　容:日本の監査基準の生成と展開(2), 近年の監査基準の改訂 教科書　第3章,　講義レジュメ
第15回	テーマ(何を学ぶか):前半の総復習 内　容:前半の講義内容の総括, 小テストの実施 教科書,　講義レジュメ
第16回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス① 内　容:監査プロセス, 経営者の主張 教科書　第4章,　講義レジュメ
第17回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス② 内　容:監査要点, 監査証拠, 監査手続 教科書　第4章,　講義レジュメ

第18回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略① 内　容:監査リスク・アプローチの意義, 監査リスクの構成要素 教科書　第5章,　講義レジュメ
第19回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略② 内　容:監査上の重要性, 監査リスク・アプローチの全体像 教科書　第5章,　講義レジュメ
第20回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了① 内　容:リスク評価, 企業および企業環境, 財務報告の理解 教科書　第6章,　講義レジュメ
第21回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了② 内　容:内部統制システム, 重要な虚偽表示のリスク(1) 教科書　第6章,　講義レジュメ
第22回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了③ 内　容:重要な虚偽表示のリスク(2), 不正リスク 教科書　第6章,　講義レジュメ
第23回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能① 内　容:監査報告書の構造 教科書　第7章,　講義レジュメ
第24回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能② 内　容:監査上の主要な検討事項(KAM) 教科書　第7章,　講義レジュメ
第25回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能③ 内　容:監査意見の種類, 継続企業の前提 教科書　第7章,　講義レジュメ
第26回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能① 内　容:内部統制監査制度 教科書　第8章,　講義レジュメ
第27回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能② 内　容:四半期レビュー制度 教科書　第8章,　講義レジュメ
第28回	テーマ(何を学ぶか):現代の監査 内　容:近年の監査に対する社会的要請 教科書　第8章,　講義レジュメ
第29回	テーマ(何を学ぶか):会計監査のケース・スタディ 内　容:会計監査に関する事例 講義レジュメ
第30回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内　容:講義内容の総括 教科書,　講義レジュメ
試　験	筆記試験の実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
税 務 会 計 Ⅰ	2単位	経営学科 選択科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
金 子 輝 雄 teruo KANEKO	**時間:** ドアに掲示 **場所:** 研究室 513	講 義

〔科目の概要〕

～ 所得税法を学び、租税（法）の理解を目指します～

日本には約50種類の税が存在しますが、その中でも所得税は最も基本的な税です。「必要経費」、「確定申告」、「源泉徴収」、「扶養控除」、「脱税」等、皆さんもこれらの言葉を耳にしたことがあると思います。専門用語というよりはもう一般常識のレベルです。

税務会計Ⅰでは、初めに、税の目的、財政上のウエイト、課税の公平性や租税法律主義といった基本原則を一通り学んでいき、徐々に所得税の学修へと進んでいきます。所得および税額の計算はもちろんですが、適宜、租税の歴史や、税務裁判事例を紹介し、租税法という観方も意識して展開していきたいと考えています。

「税務会計Ⅰ」でしっかり学んでいただければ、「所得税の確定申告」が自分自身で出来るようになります。タックス・プランニングもできるようになります。そして法人税法をなるべく理解しやすくするための準備にもなります。

また、税理士試験の所得税法、公認会計士試験の租税法の過去問の紹介・解説もします。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

会計学基礎論で学んだ会計処理の意味が理解できます。基礎的な簿記は所得税法（事業所得計算）を前提としているからです。

できれば秋学期に開校される「税務会計Ⅱ」と併せて受講してください。そこではもっぱら法人税法を取り上げます。法人税法は企業会計や企業経営とのかかわりが深ですが、所得税に比べて非常に複雑難解です。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1.（中間目標） 全国経理学校協会主催「税務会計検定試験（所得税法）」1～3級の合格。税理士試験の「所得税法」に向けた基礎的理解。「ファイナンシャル・プランニング技能士」試験のタックス・プランニングへの対応
＜毎年、数名のFP試験の合格者が出ています。＞

2.（最終目標）学説や判例を交えて法的な観点から租税法というものを考えてもらう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

数名ですが、「練習問題を解く時間を多くとってほしい。解説を丁寧にやってほしい。」という要望が見られます。個人差があるように思いますが、なるべく配慮いたします。

〔教科書〕

全国経理学校協会編『演習 所得税法 ＜最新版＞』清文社
＊事業所得の計算における引当金や減価償却の項目は「税務会計Ⅱ」で取り上げます。

〔指定図書〕

三木義一編著『よくわかる税法入門＜最新版＞』ゆうひかく選書

〔参考書〕

適宜紹介します。

〔前提科目〕

会計学基礎論を習得していることが望ましいです。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

重要な用語・計算の確認のため、毎回、出席カードを配布します。（10%）

レポート課題:税務会計検定試験の過去問等 （10%）

期末試験:税務会計検定試験の所得税法 2級程度 ＜教科書の持ち込み可＞ （80%）

〔評価の基準及びスケール〕

期末試験の得点を重視しますが、レポート課題の状況も加味します。

A:100～80
B: 79～70
C: 69～60
D: 59～50
F: 49～ 0

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

教科書の章末や巻末の練習問題に取り組みましょう。

〔実務経歴〕

銀行業及び税理士事務所での実務経験を活かし、複雑化する税制と企業活動の係わりを学び、税務会計及び税法学の理解を深める授業です。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンスと税金の制度 内　容: 税金の意義・根拠・目的・分類、納税の義務 教科書・指定図書　プリント
第2回	テーマ(何を学ぶか):租税法の基本原則 内　容: 租税法律主義と課税の公平性 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):所得税の概要 内　容: 所得税とは、納税義務者、所得の帰属等 教科書・指定図書　第1・2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):利子所得・配当所得 内　容:利子所得および配当所得の意義と金額の計算方法 教科書・指定図書　第3・4章

第5回	テーマ(何を学ぶか):不動産所得 内　容:不動産所得の意義と金額の計算方法 教科書・指定図書　第5章
第6回	テーマ(何を学ぶか):事業所得① 内　容:事業所得の意義、金額の計算、収入金額 教科書・指定図書　第6章
第7回	テーマ(何を学ぶか):事業所得② 内　容:必要経費、棚卸資産 教科書・指定図書　第6章
第8回	テーマ(何を学ぶか):事業所得③ 内　容:事業所得およびこれまで見てきた内容の計算演習 教科書・指定図書　第6章
第9回	テーマ(何を学ぶか):給与所得 内　容:概要と計算式 教科書・指定図書　第7章
第10回	テーマ(何を学ぶか):退職所得と山林所得 内　容:分離課税と5分5乗方式 教科書・指定図書　第8・9章
第11回	テーマ(何を学ぶか):譲渡所得・一時所得・雑所得 内　容:譲渡所得の概要と計算式 教科書・指定図書　第10・11・12章
第12回	テーマ(何を学ぶか):損益通算 内　容:損益通算と損失の繰り越し控除 教科書・指定図書　第13章
第13回	テーマ(何を学ぶか):所得控除 内　容:各種所得控除制度の内容 教科書・指定図書　第14章
第14回	テーマ(何を学ぶか):納付税額の計算 内　容:課税所得金額と納付税額の計算 教科書・指定図書　第15・16章
第15回	テーマ(何を学ぶか):租税の確定手続と全体のまとめ 内　容:　申告納税制度と不服申立制度についてと総合問題演習 教科書・指定図書　プリントおよび教科書の総合問題
定期試験	

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
財務戦略		2 単位	選択
〔担当者〕 長谷川美千留	〔オフィス・アワー〕講義時に提示 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

現代の企業は周知のように継続企業（ゴーイング・コンサーン）として存在している。企業が、継続企業（ゴーイング・コンサーン）であり続けるためには、企業価値の向上という経営上の目的を達成し続けなければならない。

伝統的な財務戦略とは、このような企業の経営上の目的を達成するために必須のものであり、経営戦略を財務（すなわち資金調達、資金運用）の側面から具体化し、支援するものとされた。

企業の置かれる環境は常に変化しており、これに応じて、近年、財務戦略の在り様も変化している。このような変化の背景には、我が国の企業の株式所有構造が変化し、外国人投資家との企業との関係がとりわけ重視されるようになったという事実がある。これと同時に、財務指標である ROE の重要性や企業価値の向上盛んに議論されている。その一方で、株主重視の経営から脱し、多様な利害関係者に目を向けつつ、非財務情報開示と企業価値との関係を重視するべき、という議論も盛んである。このような状況を踏まえ、ROE を重視した株主価値、企業価値の向上を掲げる財務戦略と EGS 財務戦略のような新たな方向性の二つの側面から、財務戦略について検討する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「財務戦略論」は戦略という意味では、「経営戦略論」と、財務という点においては「財務管理論」、「財務分析Ⅰ」ならびに「財務分析Ⅱ」と関連している。講義内容は、具体的な資格や検定に直結はしないが、企業という対象を経営と財務という二つの分野の中間地点から概観することで、一層理解が深まる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標

企業価値経営の概要について理解している。

最終目標

企業価値経営という視点からみた財務戦略と近年注目される ESG 財務戦略について、論じることが出来る。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕

伊藤邦夫著『企業価値経営』日本経済新聞出版社、2022 年

〔指定図書〕

A）桑島浩彰・田中慎一・保田隆明著『SDGS 時代を勝ち抜く ESG 財務戦略』ダイヤモンド社、2022 年

B）柳良平著『ROE 革命の財務戦略－外国人投資家が日本企業を強くする』中央経済社、2017 年

〔参考書〕

〔前提科目〕

財務分析Ⅰ・財務管理論

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

期末試験（筆記）100％

〔評価の基準及びスケール〕

A 評価:80 点以上

B 評価:70 点以上 80 点未満

C 評価:60 点以上 70 点未満

D 評価:50 点以上 60 点未満

F 評価:50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義はゆっくり進めます。	
実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 財務戦略とは何か。 内 容: 現代の財務戦略における課題を概観する。 教科書指定図書 B)第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか):価値思考と財務戦略 内 容:企業価値とガバナンス改革、財務戦略について。 教科書第1章・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):企業価値経営のフレームワーク 内 容:企業価値経営とは何かについて。 教科書第2章・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表から読む企業活動 内 容:財務諸表から企業活動とその財務戦略を読む。 教科書第3章・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):戦略的ファンダメンタル分析 内 容:財務分析について。 教科書第4章・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):会計戦略分析 内 容:会計政策と戦略を分析する。 教科書第6章・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):証券市場と企業評価 内 容: 市場と会計情報、投資家との対話について。 教科書第9章・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):学修のまとめ① 内 容:第1回から第7回までの学習内容の確認。 教科書第1,2,3,4,6,9章・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):資本コスト 内 容:資本コストの測定と管理 教科書第10章・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):M&A 内 容:企業価値創造のためのM&Aと事業ポートフォリオ 教科書第12章・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):統合報告 内 容:近年公表される株式会社の統合報告について。 教科書・指定図書

第12回	テーマ(何を学ぶか):無形資産と財務戦略 内　容: 無形資産の価値評価と前略的活用。 教科書第14章・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):ESG経営と財務戦略① 内　容:ESGの視点から財務戦略を考える。 教科書第15章・指定図書A)第2章
第14回	テーマ(何を学ぶか):ESG経営と財務戦略② 内　容:近年注目される、非財務情報と企業評価について 教科書第15章・指定図書A)第3章
第15回	テーマ(何を学ぶか):学修のまとめ② 内　容:第9回から第14回までのまとめ。 教科書第1章～第6章・指定図書第1章～第3章
試　験	期末試験(筆記)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
商 業 実 習	４単位	教 職 課 程

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
砂 場　孝一郎 Sunaba　koitiro	時間 ： 授業実施日の　昼食時間は対応可能 場所 ： 5階の非常勤講師控え室	講義　演習

〔科目の概要〕

この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。そして、受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学ぶことを希望する。授業内容は、受講生諸君が教師として、高校生を商業に関する「将来のスペシャスト」に育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるものである。

受講する学生は、社会に生き、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養などにも配慮した教育を行うため、新たに求められる教育内容・方法を理解しなければならない。

文部科学省は、2018 年に、2022 年度から年次進行で実施する新高等学校学習指導要領の改訂版を発表した。本年度はその２年目である。文部科学省は改訂の基本的なねらいとして、①生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する　②これまでの教育内容を維持し、その質を更に高め、確かな学力を育成する　③道徳教育の充実等により、豊かな心や健やかな体を育成する　の３点を示した。商業教育もこのことを基本にし、育成する資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を実施しなければならない。

この新しい商業教育の内容・方向性を中心に、受講する学生に伝えていきたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。

商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、年々多様化してきている。

このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。

また、教育改革や働き方改革などにより、学校教育は日々変遷してきていることから、教育法規をもとに商業教育の主要な動向等について理解するために、この科目を学ぶ必要性がある。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

商業科教師には、次の３つのことが求められ、この科目の目標とする。

① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うための指導力が求められる。

② 次に商業科教師には、高校生を望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成する、人としての資質が求められる。
以上２つの資質を身につけることが、この科目の中間目標である。

③ そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。
この資質を身につけることが、この科目の最終目標となる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生の「授業評価」は、担当教員の総括の基本であり、真摯に向き合いたいと思っている。

学生がこの科目で学んだことが、「中等教科教育法　商業Ⅰ・商業Ⅱ」での模擬授業等に生かされることが、この科目の目標の一つでもある。　また、学生の「授業評価」は、授業担当者が成長するための基礎・基本となる。これまでの評価内容を授業改善に生かしていきたい。

〔教科書〕

購入は不要である。 必要に応じて、商業、経済に関する資料、新学習指導要領等の資料を配賦する。

〔指定図書〕

「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 編　　実教出版

〔参考書〕

な し。

〔前提科目〕

な し。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

学修の課題は、高校教師としての資質を身に付けることである。
評価の方法は、①課題のレポート提出(2回予定)、②筆記小テスト(授業内で2度予定)、③プレゼンテーションの実施、④授業の履修態度を通して、学習意欲の有無・目標への到達度を判断し、絶対評価(100点法)で行う。
(因みに、授業に出席さえすれば単位認定されるとは限らない。)
そして、それを本学の定める評定方法に従い、総合的な評定(A・B・C・D・F)を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

評価基準は、本学が定めている評定方法に従って行う。基準とスケールは次の通りである。
A(80点以上)　B(70点以上)　C(60点以上)　D(50点以上)　F(50点未満)
評価の観点は、①知識・技能　②思考・判断・表現の各能力　③学修に取り組む姿勢である。
数値化の難しい観点もあるが、教職課程の科目であることから、敢えて観点としたい。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

文部科学省は、2022年度から年次進行で実施される新学習指導要領を公表・実施した。そのために、担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、新要領の商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。
なお、学生が授業を欠席する際の授業担当者への連絡は、原則として求めない。

〔実務経歴〕

該 当 な し

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか) ： オリエンテーション 内　容 ： 講義の目的と内容、進め方、評価の方法について 教員作成のレジュメ、資料による
第2回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法 (関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買条件 (商品の品質 ・ 数量 ・ 価格) 教員作成のレジュメ、資料による
第3回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買条件 (受け渡し時期 ・ 受け渡し場所 ・ 代金の受払方法) 教員作成のレジュメ、資料による
第4回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買契約の締結(見積もり・注文)、はんこ(印鑑)の実務 教員作成のレジュメ、資料による

第5回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買契約の履行(商品の受け渡し・代金決済・電子記録債権・債務) 教員作成のレジュメ、資料による
第6回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　　容 ： 代金決済(通貨・小切手・約束手形・その他)、約束手形の廃止 教員作成のレジュメ、資料による
第7回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 度量衡 ・ 外国貨幣 ・ 割合、外国為替の基本 教員作成のレジュメ、資料による
第8回	テーマ(何を学ぶか)　： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 割り増し・割引・商品の数量と代金の計算・消費税の仕組み 教員作成のレジュメ、資料による
第9回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 仕入原価の計算・販売価格の計算・売価の計算・売買損益の計算 教員作成のレジュメ、資料による
第10回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 利息の計算・日数計算 教員作成のレジュメ、資料による
第11回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： ビジネスに対する心構え 教員作成のレジュメ、資料による
第12回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)
第13回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ：　学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)
第14回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： 基礎的なビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話応対) 教員作成のレジュメ、資料による
第15回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 :人間 関係の重要性　※筆記小テスト(1度目) 教員作成のレジュメ、資料による
第16回	テーマ(何を学ぶか) ：　企業活動の基礎 内　容 ： 企業の形態と経営組織(1) 教員作成のレジュメ、資料による
第17回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業活動の基礎 内　容 ： 企業の形態と経営組織 (2) 教員作成のレジュメ、資料による

第18回	テーマ(何を学ぶか) :企業活動の基礎 内　容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 教員作成のレジュメ、資料による
第19回	テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内　容 :学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 教員作成のレジュメ、資料による
第20回	テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内　容 : 企業活動と税 教員作成のレジュメ、資料による
第21回	テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内　容 : 雇　用(働き方改革・労働関連法令) 教員作成のレジュメ、資料による
第22回	テーマ(何を学ぶか) :　経済社会と法 内　容 : 法の意義と役割 教員作成のレジュメ、資料による
第23回	テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権 内　容 : 権利と義務、物権と債権 教員作成のレジュメ、資料による
第24回	テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権 内　容 : 知的財産権 教員作成のレジュメ、資料による
第25回	テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法 内　容 : 契約と意思表示、売買契約と賃借契約 教員作成のレジュメ、資料による
第26回	テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法 内　容 : 債権の管理と回収、金融取引 教員作成のレジュメ、資料による
第27回	テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法 内　容 : 法令遵守、紛争の予防と解決 教員作成のレジュメ、資料による
第28回	テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法 内　容 : 消費者保護 教員作成のレジュメ、資料による
第29回	テーマ(何を学ぶか) : 商業教育の現状と課題 内　容 : 高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路 新学習指導要領の内容と商業教育の方向性について 教員作成のレジュメ、資料による
第30回	テーマ(何を学ぶか) : 商業科教員になるには 内　容 : 商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方 ※筆記小テスト(2度目) 教員作成のレジュメ、資料による
試 験	授業の中で、筆記小テストを2度 実施。 (1度目は第15回の授業の中 ・ 2度目は第30回 の授業の中) 。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
環境経済学	2単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
青山　直人 Aoyama, Naoto	**時間:** 詳細は授業中にアナウンスします。 **場所:** 青山研究室	講義

〔科目の概要〕

私たちが直面している環境問題は、大気や水、土壌などの汚染問題から廃棄物問題、気候変動問題、生物多様性の減少、景観の保全などの文化的ストックの問題まで多様な領域にわたり、空間的スケールにおいては騒音や悪臭などの地域的規模の問題から、酸性雨問題などの国際的規模、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球的規模の問題まで広域化し、深刻化しています。この多様で重層な環境問題を解決するためには、(1)なぜ環境問題が発生するのか、(2)環境問題を解決するために必要なことは何か、(3)環境保全をどのようにするのか、ということを考えなければなりません。本科目では、環境問題発生のメカニズム、環境政策の基礎理論、環境の価値評価といったテーマを取り上げ、環境経済学の基本的な考え方を学びます。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

(「授業科目群」・他の科目との関連付け)

環境経済学を勉強するためには、市場機構を学習するミクロ経済学、外部性や公共財を学習する公共経済学の知識とその考え方が必要となります。

(なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが何に結びつくか)

私たちが身近に直面している環境問題やテレビ、新聞などのニュースで取り上げられる環境問題について、問題発生の原因や実施される政策を経済学的に考える力を養ってほしいと思います。開発に関わる公共事業や環境保全政策にとって大切なことの一つは、地域住民の意見や選好が反映されているかどうかということです。環境の価値を考え、地域に住む人々の意見が公共投資に反映されているかどうかを考える力を養ってほしいと思います。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

(中間目標)

「環境問題発生のメカニズム」を学習し、環境問題の原因を考える力を養ってほしいと思います。

(最終目標)

「環境問題発生のメカニズム」「環境政策の基礎理論」「環境の価値評価」を学習し、環境問題を解決するために必要なことは何か、環境保全型社会を実現するためにできることは何か、考えてほしいと思います。また、経済学理論の環境問題への応用方法を学習することで、環境問題以外の社会問題を経済学的に考える力を身につけてほしいと思います。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

文字の大きさに注意し、板書するようにします。説明の際、声量・マイクの音量に注意します。

〔教科書〕

栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ　第４版』有斐閣、2020 年。
日引聡、有村俊秀著『入門　環境経済学　環境問題解決へのアプローチ』中央公論新社、2002 年。

〔指定図書〕

植田和弘著『現代経済学入門　環境経済学』岩波書店、1996 年。
栗山浩一、柘植隆宏、庄子康著『初心者のための環境評価入門』勁草書房、2013 年。
細田衛士、横山彰著『環境経済学』有斐閣アルマ、2007 年。
諸富徹、浅野耕太、森晶寿著『環境経済学講義-持続可能な発展を目指して』有斐閣、2008 年。

〔参考書〕
R.K.ターナー/D.ピアス/I.ベイトマン著　大沼あゆみ(訳)『環境経済学入門』東洋経済新報社、2001 年。
板谷淳一、佐野博之著『コア・テキスト　公共経済学』新世社、2013 年。

〔前提科目〕
「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「公共経済学」を履修済みであることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末試験と小テストの成績を用いて総合的に評価する予定です。
ただし、(新型コロナ感染症の拡大等の影響で)授業スケジュールに変更が生じた場合は課題を課すこともあります。課題は評価に含めます。

〔評価の基準及びスケール〕

A　80%以上、 B　70%以上 80%未満、 C　60%以上 70%未満、 D　50%以上 60%未満、 F　50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
　これまでにミクロ経済学、公共経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むことをすすめます。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。授業スケジュールは次のとおりになっています。ただし、小テストの結果(授業の理解度等)によっては変更することもあります。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか)：　イントロダクション 内　容：私たちが直面している環境問題を取り上げ、環境経済学の役割について取り上げます。 配布資料　(栗山・馬奈木(第1章、第 6 章 Unit22)など)
第2回	テーマ(何を学ぶか)：　イントロダクション 内　容：第 1 回講義の続き。 配布資料　(栗山・馬奈木(第1章、第 6 章 Unit22))など)
第3回	テーマ(何を学ぶか)：環境問題発生のメカニズム(1)外部性と市場の失敗 内　容：なぜ環境問題が発生するのであろうか。市場機構の仕組みを学習し、外部性の問題を取り上げます。 配布資料　(栗山・馬奈木(第 2 章 Unit4)、日引・有村(第 1 章)など)
第4回	テーマ(何を学ぶか)：環境問題発生のメカニズム(1)外部性と市場の失敗 内　容：第 3 回講義の続き。 配布資料　(栗山・馬奈木(第 2 章 Unit4)、日引・有村(第 1 章)など)
第5回	テーマ(何を学ぶか)：環境問題発生のメカニズム(2)共有資源の利用と管理 内　容：多くの人々が利用可能な資源をコモンズと呼びます。森林の劣化などのコモンズの悲劇について学習します。 配布資料　(栗山・馬奈木(第 2 章 Unit5)、植田(第 9 章)など)
第6回	テーマ(何を学ぶか)：環境問題発生のメカニズム(2)共有資源の利用と管理 内　容：第 5 回講義の続き。 配布資料　(栗山・馬奈木(第 2 章 Unit5)、植田(第 9 章)など)

第7回	テーマ(何を学ぶか):環境問題発生のメカニズム(3)公共財とフリーライド問題 内　容: 環境は公共財としての性質を備えています。公共財供給におけるフリーライド問題を取り上げます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第2章Unit6)など)
第8回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(1)直接規制と市場メカニズム 内　容: 伝統的な環境政策である直接規制を学習します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit7)、日引・有村(第2章)など)
第9回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2)環境税 内　容: 環境問題への経済学的アプローチとして、環境税を学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))
第10回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2)環境税 内　容: 第9回講義の続き。環境税について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))
第11回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(3)直接交渉による解決 内　容: 直接交渉による環境問題の解決について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit9)、日引・有村(第2、3章)、諸富他(第3章)など)
第12回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(4)排出権取引 内　容: 排出権取引について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit10)、日引・有村(第3章)、諸富他(第3章)など)
第13回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1)環境の価値 内　容: 環境の価値とは何か。環境の利用価値と非利用価値を考え、支払意思額と受入補償額について学習します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit15)、栗山他(第1、2章)など)
第14回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1)環境の価値 内　容: 第13回講義の続き。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit15)、栗山他(第1、2章)など)
第15回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(2)環境評価手法 内　容: 代表的な環境評価手法の基本的な考え方を紹介します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit16、Unit17)、栗山他(第3～10章)など)
試　験	試験を行います。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域経営論	2 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
足達健夫	**時間:** 後日掲示する **場所:** 1302 号室	講義

〔科目の概要〕

人口減少時代を迎えるにあたり、地域をどのような姿にしていく（経営していく）べきかを考える。「地域を経営する」といっても、地域を構成する要素は多岐にわたり、「この方法をとれば、かならずこういう結果が出る」という方程式があるわけではない。しかし、この分野で学んでおくべき概念や考え方、制度、用語、事例はある。本科目ではなるべく網羅的に、基本的かつ重要なものをとりあげる。

講義は、現在の地方都市が直面する状況からはじまり、都市空間、交通、環境、観光などのテーマについて解説する。いずれのテーマにも共通するのは、それらが住民にとってなにを意味するかである。この「住民の視点」を、全体を貫くもうひとつのテーマとして講義を進める。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目の対象は地域社会に住み、地域社会をつくる担い手を想定している。ここで学ぶことは、将来、行政や地域企業で、地域に関わる仕事に取り組む際に最低限必要な考え方・知識である。「住み」、「つくる」ことは、すべての地域住民がやっていることだが、本科目の履修者は、学術的な知識に裏付けられた上で、明確な意図を持ってそれを行うことになる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

「地域経営」が、どのような場面で、どのような考え方によってなされているかを、具体的に説明できること。それに関連するさまざまな事例に言及できること。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

その日の講義の要点をより具体的に整理できるようにした。

〔教科書〕

特に定めない。

〔指定図書〕

特に定めない。

〔参考書〕

特に定めない。講義中に随時、文献を紹介する。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

(1)定期試験の点数で評価する。出席に関する下記の条件をクリアしていても、欠席が多い場合は定期試験の点数よりも低い評価を与えることがある。

(2)理由にかかわらず、6回欠席した時点でF評価とし、期末試験の受験を認めない。

〔評価の基準及びスケール〕

A:80%以上
B:70～79%
C:60～69%
D:50～59%
F:50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

講義中、学生一人ひとりに随時、試問／質問をする。自由、柔軟な発想で考えを述べたり、わからないときは「なにがわからないか」を考えそれを述べるたりするなど、教員とのコミュニケーションにより、ともに講義をつくる姿勢を望む。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(1) 内　容: 日本・世界における人口の傾向、合計特殊出生率と影響要因
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(2) 内　容: 地域における人口動態、地方版「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
第3回	テーマ(何を学ぶか): 公共施設 内　容: 公共施設とは、施設数の推移、自治体の財政、総合的な管理計画、住民の視点と活動、インフラストラクチャーとは、インフラの外部経済性、評価手法の重要性と事例
第4回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(1) 内　容: 都市化、都市の誕生と成長
第5回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(2) 内　容: 地域モデル、都市の構造
第6回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(3) 内　容: 中心市街地の問題と活性化、コンパクトシティと市街地の誘導
第7回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(1) 内　容: 交通と都市構造、交通と中心市街地

第8回	テーマ(何を学ぶか)： 地域と交通(2) 内　容： 都市交通の問題、自動車交通と公共交通、歩行者環境
第9回	テーマ(何を学ぶか)： 地域と交通(3) 内　容： 地域に与える影響、交通まちづくり
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 地域環境(1) 内　容： 環境破壊とはなにか、自然環境の価値
第11回	テーマ(何を学ぶか)： 地域環境(2) 内　容： 積極的／消極的な層、環境保護と地域雇用、「見返りのある保護」、事例
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 観光(1) 内　容： 観光動態、エコ・ツーリズム
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 観光(2) 内　容： 地域資源としての世界遺産、観光形態の変化
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 地域プロモーション(1) 内　容： フィルム・コミッション、地域イメージのコーディング
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 地域プロモーション(2) 内　容： 地域プロモーション、メディアの活用、事例
試 験	期末試験。試験範囲はすべての講義内容が対象。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
金融経済学Ⅱ	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
國方　明 Kunikata, Akira	**時間**: 第 1 回の授業で連絡します。 **場所**: 525 号室	講義

〔科目の概要〕

本科目では、金融という経済活動を、主にマクロ経済学の知識を使って理解します。皆さんのほとんどはマクロ経済学を受講しているでしょうし、皆さんの中には経済変動論を受講した人もいるでしょう。これら科目で身につけたマクロ経済学の知識と理論のうち、金融にかかわる部分をより深く学びます。

第 5 回～第 13 回が、マクロ経済学を金融に応用した授業です。マクロ経済学と経済変動論に比べて、本科目では、マクロ経済学の歴史を振り返りながら、金融政策の有効性について議論します。また、本科目では金融政策の目標と手段といったやや技術的な面も学びます。

また、残り(第 1 回～第 4 回、第 14 回と第 15 回)の授業では、第 5 回～第 13 回の授業を理解するために必要な範囲内で、ミクロ経済学を金融に応用します。特に金融システムの重要な構成要素である民間銀行について学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 他の科目との関連付け

まず、〔科目の概要〕で説明したように、本科目では、主にマクロ経済学や経済変動論で学んだ知識を用いて金融を理解します。したがって、マクロ経済学に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、マクロ経済学のうち金融政策と金融システムにかかわる部分です。

次に、本科目で教えた知識を、金融機関論(3 年次秋学期、展開科目)で応用する予定です。。

2. 学んだことが何に結びつくか？

皆さんは既にマクロ経済学と経済変動論で、金融政策の重要性を学んだと思います。この重要さを、歴史や技術面も含めて理解できると考えます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1. 最終目標

・　金融政策が一国経済や世界経済に与える影響を適切に理解するための知識と理論を身につける。

2. 中間目標

・　金融政策の目標と手段を学ぶ。
・　民間銀行が、金融政策とどのように関連しているかを学ぶ。
・　現在の日本で、金融特に金融政策と金融システムに関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。

以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりTVのニュースを見たりした時に応用する必要があるでしょう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2022 年度には、3 年生科目全体よりもまずまず高い評価をいただきました。2023 年度にも高い評価を得られるように努めます。

〔教科書〕

本科目では教科書を使用しません。その代わり、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。

〔指定図書〕

該当無し。

〔参考書〕

参考書 1:　内田浩史『金融』有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)
参考書 2:　小林照義『金融政策　第 2 版』中央経済社、2020 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)
参考書 3:　佐藤綾野・中田勇人『国際金融論 15 講』新世社、2021 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)
参考書 4:　植田健一『金融システムの経済学』日本評論社、2022 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)

〔前提科目〕

マクロ経済学、経済変動論

上記2科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、前提科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

2020年4月以後に入学した学生については、次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。

(ア) 授業内小テスト1回。択一式です。

(イ) 期末試験。択一式と記述式の併用です。

一方、2019年4月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕1点目**を参照してください。

〔評価の基準及びスケール〕

2020年4月以後に入学した学生については、〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。

A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。

一方、2019年4月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕1点目**を参照してください。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- 2019年4月以前に入学した学生は、本科目を履修するとともに、今年度秋学期開講の金融経済学Iを履修してください。これら2科目の学修成果を総合して、旧旧カリ科目「金融経済学」4単位分の評価を行います。
- 第1回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。

〔実務経歴〕

公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、これまで学んできたマクロ経済学の理論をどのように金融へ拡張できるのか、また金融理論の特徴が現実の制度とどのように結びついているのかを学ぶ授業です。

授業スケジュール

(新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスと民間銀行(1) 内　容: まず、本科目の全体像を学びます。次に、民間銀行の超過利潤の源を理解します。民間銀行特に地域銀行は、利鞘から超過利潤を得ます。利鞘は、長期の貸出利子率から、短期の預金利子率を引いた差です。 参考書1 第8章と第13章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 利子率の期間構造 内　容: 長期利子率と短期利子率との関係について、3つの仮説があります。これら仮説を紹介します。 参考書1 第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 民間銀行(2) 内　容: 民間銀行の役割を学びます。また、取り付け騒ぎという現象を学びます。 参考書1 第8章と第13章、参考書4 第8章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行(日本では日本銀行) 内　容: あえてミクロ経済学的な思考法を使って、中央銀行という個別経済主体を学びます。 参考書1 第12章と第14章、参考書4 第8章

第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣供給と、貨幣に対する需要 内　容: 第 5 回～第 9 回では、金融政策を中心に、一国で完結するマクロ経済学の理論を学びます。第 5 回では、貨幣供給と貨幣需要それぞれの決まり方を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の有効性についての論争 内　容: マクロ経済学の歴史を振り返り、金融政策の有効性についての論争を紹介します。また、裁量とルール、タイムラグ、時間不整合性やクレディビリティなど、論争の中で現れた様々な概念を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の最終目標と手段 内　容: 金融政策の最終目標を学びます。また、中央銀行が最終目標を達成するために実施する手段を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): ルール割り当て理論 内　容: 第 6 回で、金融政策にかかわるルールを学びました。今回、まず代表的なルールを 2 種類学びます。次に、2 種類のルールの割り当てについての理論を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 非伝統的金融政策 内　容: 1990 年代末以降、わが国では非伝統的金融政策が数度実施されています。非伝統的金融政策の特徴や、期待される効果を学びます。また、非伝統的金融政策の副作用も学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 国際収支統計 内　容: 対外取引を集計した統計を紹介します。また、第 10 回授業内で、小テストを実施する予定です。 参考書 3 第 2 講
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 為替レートの決定理論 内　容: 為替レートの決定理論を 2 つ学びます。 参考書 3 第 7 講と第 8 講
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 開放マクロ経済の理論モデル 内　容: IS/LM モデルを開放経済に拡張して、マンデル=フレミングモデルを理解します。また、マンデル=フレミングモデルを用いて、開放経済における財政政策と金融政策それぞれの効果を学びます。 参考書 3 第 12 講と第 13 講
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(1) 内　容: 第 3 回で、取り付け騒ぎを学びました。第 13 回～第 15 回では、この騒ぎを予防したり、騒ぎが実現したときに騒ぎを軽減したりするための政策対応を学びます。この政策をプルーデンス政策といいます。 また、プルーデンス政策は、マクロプルーデンス政策とミクロプルーデンス政策の 2 つに分かれます。第 13 回ではマクロプルーデンス政策を学びます。 参考書 1 第 14 章、参考書 4 第 9 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(2) 内　容: ミクロプルーデンス政策の手段のうち自己資本比率規制を学びます。 参考書 1 第 14 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(3) 内　容: ミクロプルーデンス政策の手段のうち自己資本比率規制以外を学びます。 参考書 1 第 14 章
試　験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域経済学	4	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
樺　克裕 KAMBA, Katsuhiro	授業開始後にお知らせします。	講義

〔科目の概要〕

21世紀に入り、経済はグローバル化しました。企業は国境を超えて活動し、様々な国で作れられた商品が日本国内で流通する時代になりました。そのような中で、日本企業はアメリカやヨーロッパ諸国のような先進国の企業だけでなく、中国や韓国、インド等の新興国の企業とも激しい競争を繰り広げており、日本企業を取り巻く環境は一段と厳しくなっています。

一方で、日本国内では、人口減少社会を迎え、その中でも人口と企業が集中する東京等の都市部と、人口の流出に歯止めがかからず地域経済が衰退しつつある青森県のような地方部の経済的な格差が深刻な社会問題となっています。様々な規制緩和により、大企業が提供する低価格な商品、サービスを全国どこでも享受できるようになった一方で、地方の老舗企業の倒産も目立っています。

また、日本の各地域の経済を詳細にみると、モータリゼーションや立地規制の緩和等により伝統的な商店街の多くは疲弊し、空き店舗が目立っています。グローバル経済の影響を受け、中小製造業も円高の進展や下請け関係の解消等厳しい状況にあり、地方に誘致した大企業の工場も数年で移転、閉鎖することも珍しくない状況にあります。

このように、地域経済は、日本国内の経済だけでなく、世界経済と密接に繋がっています。この科目では、世界経済、日本経済の最新の現状分析と人口移動、地価、都市規模、立地等に関する理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深めることを目的とします。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

みなさんが既に学んできたミクロ経済学、マクロ経済学等では、物事を単純化して考えてきたと思います。しかし、実際に各地域の経済を考える時には、地域の特性（気候、人口、地理的条件、インフラの整備状況…）を無視して考えることはできません。地域経済をより深く理解するため、地域経済学の授業では、地域の実情を考慮しながら、地域経済を分析する視点を提示していきます。

学生の皆さんは、いずれ社会人として地域経済の担い手となります。その際、この授業内容が少しでも役立つようになればと願っています。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標：世界経済、日本経済、地域経済の現状について理解すること

最終目標：経済学的視点を持って地域経済の様々な問題を分析できるようになること。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

綺麗な板書を心掛けます。

〔教科書〕

なし。授業は配布するレジュメに沿って進行します。

〔指定図書〕

佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣ステゥディア　有斐閣　2014 年

〔参考書〕

金本良嗣・藤原 徹『都市経済学（第2版）＜プログレッシブ経済学シリーズ＞』東洋経済新報社　2016 年
高橋孝明『都市経済学』有斐閣ブックス　有斐閣　2012 年
土地総合研究所編 山崎福寿・中川雅之著『経済学で考える 人口減少時代の住宅土地問題』東洋経済新報社　2020年

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

中間試験と期末試験で評価します。詳細は第１回目の授業で発表します。

〔評価の基準及びスケール〕

評 価	得点比率
A	80% ～ 100%
B	70% ～ 80%未満
C	60% ～ 70%未満
D	50% ～ 60%未満
F	50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・地域の経済活動に関心をもつために、新聞やニュースをチェックすることを推奨します。

〔実務経歴〕

旧通産省での実務経験を活かし、世界経済・日本経済の最新の現状分析とより理解を深めるための理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深める授業です。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):地域経済学とは？ 内　容:世界経済と日本経済と地域経済の関連性
第2回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の現状 内　容:本格的に地域経済学を学ぶ前に、地域経済の現状を俯瞰する。
第3回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(1) 内　容:経済のグローバル化が日本経済に与える影響
第4回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(2) 内　容:グローバル化が地域経済に与える影響
第5回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(1) 内　容:経済政策の種類と地域経済への影響
第6回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(2) 内　容:過去の経済政策(経済対策)と地域経済
第7回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(1) 内　容:セイの法則と有効需要の原理
第8回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(2) 内　容:需要モデルと供給モデル
第9回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(1) 内　容:産業連関表の導出

第10回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(2) 内　容:産業連関表と経済波及効果
第11回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(1) 内　容:日本の企業経営の現状
第12回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(2) 内　容:地域の中小企業の現状
第13回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(1) 内　容:労働市場の概説
第14回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(2) 内　容:労働市場の地域間格差
第15回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政と地域経済 内　容:財政制度の概要
第16回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(1) 内　容:地域間人口移動の現状
第17回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(2) 内　容:地域間人口移動の理論
第18回	テーマ(何を学ぶか):集積の経済 内　容:集積の経済モデル
第19回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(1) 内　容:農地の土地利用分析
第20回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(2) 内　容:都市の土地利用分析
第21回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(1) 内　容:日本の住宅市場
第22回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(2) 内　容:住宅価格・家賃・地価・地代のモデル分析
第23回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(1) 内　容:システムとしての都市

第24回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(2) 内　容:都市規模決定の理論モデル
第25回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(1) 内　容:工業立地の分析
第26回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(2) 内　容:商業立地の分析
第27回	テーマ(何を学ぶか):コロナ禍の地域経済への影響 内　容:人口移動、リモートワーク、オフィス移転等の地域経済への影響
第28回	テーマ(何を学ぶか):地方財政の理論 内　容:公共財の供給、課税ゲーム
第29回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(1) 内　容:経路選択
第30回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(2) 内　容:交通サービスと混雑の影響
試　験	定期試験を実施する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
産業組織論	4 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
橋本　悟	時間：初回の授業で提示 場所：初回の授業で提示	講義形式

〔科目の概要〕

産業組織論とは、応用ミクロ経済学であり、産業間の関係、企業間の関係、政府と企業の関係など幅広い分野を含む。授業では、ミクロ経済学の学習をベースとした基礎編と、より実務的・政策的な視点からの応用編に分けて学習する。また、マクロ経済学の経済成長などをベースとして研究開発やイノベーションの重要性も学習する。

目標とする到達レベルは以下の通り。

1. 企業の立場から利潤拡大の戦略を考えることができる。
2. 政府が行う産業政策の意味が理解できる。

前半は、基本的にはミクロ経済学の復習をしながら、企業活動、市場構造、産業構造を見ていく。後半は、具体的な産業を取り上げて、競争状況、産業政策、グローバル化などを見ていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

企業戦略や産業政策などをはじめとした社会のさまざまな事象に対して、経済学的な視点から考える力を身につけることが出来るようになる。また、需要サイドと供給サイドの視点から市場を見ることができるようになる。

将来的には、企業に就職して具体的な企業戦略を考える際や、市場の状況・環境を分析する際に役に立つと思われる。さらに、様々な社会の問題に対して、経済学的な視点から問題解決を行う力が身につくと思われる。

ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済などの科目と関連する。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

（中間目標）

1. 経済学に興味を持つことができる。
2. 不完全競争市場における企業行動の基本的知識・理論を身につけることができる。
3. 企業の行動に関心を持つことができる。

（最終目標）

1. 企業の立場から利潤拡大などの企業戦略を考えることができる。
2. 政府が行う産業政策や競争政策の意味が理解できる。
3. 企業サイド（供給サイド）と消費者サイド（需要サイド）の両サイドから市場・産業を見ることができる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

特になし。

〔教科書〕

特に指定はしない。毎回レジュメを配って対応する。レジュメに書き込む形で授業を進めるので、しっかりと書き込みながら学習することを強く勧める。また、試験の際には、そのレジュメを使って勉強することになると思われる。

〔指定図書〕

特に指定はしない。ただし、授業内容に興味を持った場合や、理解が不十分な場合は参考書を読むことをお勧めする。

〔参考書〕

1）長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社、1998
2）井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治『入門・産業組織』有斐閣、2010
3）小田切宏之『競争政策論（第2版）』日本評論社、2017
4）ネリス・パーカー『ビジネス・エコノミクス原理（第2版）』（訳岩本・小野）ピアソンエドケーション、2009

5）橘川武郎・平野創・板垣暁『日本の産業と企業』有斐閣、2014
6）Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017
7）David M. Kreps, Microeconomics for Managers (Second Edition), Princeton University Press, 2019

〔前提科目〕
ミクロ経済学とマクロ経済学の知識があることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
以下の通り総合的に判断する予定である。
・定期試験（期末試験）60％（到達目標の達成度に応じて評価する）
・小テスト（または、宿題）40％
・裁量点（授業への貢献度、熱心さなども考慮する）

〔評価の基準及びスケール〕
評価基準は以下の通り。
A:90％以上
B:80％以上 90％未満
C:70％以上 80％未満
D:60％以上 70％未満
F:60％以下（不可）

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
基本的にレジュメを配り、その内容に基づいて授業を行う。授業ではできるだけ現実と結び付けて説明をする予定なので、頑張って理解するように心掛けてほしい。また、以下の要領で予習と復習をしてほしい。
（予習）
1. 新聞やニュースを読んだり見たりして、経済活動や企業活動に詳しくなること。
2. ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的なテキストを読み直しておくこと。
（復習）
3. レジュメを読み直し、重要な語句を覚える。重要な理論はその導出過程も確認する。
4. レジュメに演習問題がある場合は、それを解く。
5. 理解が不十分な場合は、参考文献の該当箇所を読むこと。

〔実務経歴〕
なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）：産業組織論とは 内　容：ガイダンス、産業組織論とは何か？ 教科書・指定図書：教員作成資料（レジュメを配布する）
第２回	テーマ（何を学ぶか）：ミクロ経済学の復習1 内　容：市場理論（完全競争市場と不完全競争市場） 教科書・指定図書：教員作成資料（レジュメを配布する）
第３回	テーマ（何を学ぶか）：ミクロ経済学の復習2 内　容：企業理論（企業の利潤最大化、費用の概念、規模の経済など） 教科書・指定図書：教員作成資料（レジュメを配布する）
第４回	テーマ（何を学ぶか）：ミクロ経済学の復習3 内　容：企業理論（企業の規模、組織、日本型企業システム） 教科書・指定図書：教員作成資料（レジュメを配布する）

第5回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場 内　容:独占企業の行動(利潤最大化、非効率性、マークアップ原理、屈折需要曲線など) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第6回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場2 内　容:複占市場(クールノー競争、シュタッケルベルグ競争、ベルトラン競争) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第7回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場3 内　容:ゲーム理論1(ナッシュ均衡、マクシミン・ミニマックス均衡) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第8回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場4 内　容: ゲーム理論2(混合戦略、ゲームの木) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第9回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場5 内　容:価格差別戦略(グループ別価格差別、二部料金、厚生分析) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第10回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場6 内　容:共謀・カルテルと価格競争 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第11回	テーマ(何を学ぶか):市場構造1 内　容:参入障壁と参入・退出規制など 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第12回	テーマ(何を学ぶか):市場構造2 内　容:合併(水平統合・垂直統合) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第13回	テーマ(何を学ぶか):市場構造3 内　容:参入阻止行動 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第14回	テーマ(何を学ぶか):市場構造4 内　容:市場の失敗と政府の政策 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第15回	テーマ(何を学ぶか):総復習(小テスト) 内　容:第1回から第14回までの問題演習 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第16回	テーマ(何を学ぶか):具体的産業 内　容:具体的な産業(自動車産業、電力産業、通信産業、衣料品産業など) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第17回	テーマ(何を学ぶか):非価格戦略1 内　容:垂直統合と政府の政策 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第18回	テーマ(何を学ぶか):非価格戦略2 内　容:商品の差別化(理論と事例) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)

第19回	テーマ(何を学ぶか):非価格戦略3 内　容:市場集中度・マーケットシェア・インセンティブ戦略 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第20回	テーマ(何を学ぶか):技術革新と研究開発1 内　容:技術革新のインセンティブ 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第21回	テーマ(何を学ぶか):技術革新と研究開発2 内　容:技術革新と政府の政策(カーボンニュートラル) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第22回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争1 内　容:規制の根拠(市場の失敗、外部性、公共財) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第23回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争2 内　容:自然独占規制の目的と改革 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第24回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争3 内　容:価格規制理論(ラムゼイ・ピークロードなど)と規制の実態 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第25回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争4 内　容:規制緩和とその意義(電力、航空産業など) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第26回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済1 内　容:ネットワーク効果(バンドワゴン効果など)、スタンダード、バーゲニングパワー 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第27回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済2 内　容:ネットワーク外部性と企業間競争、知的財産権保護 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第28回	テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長1 内　容:経済成長の源泉・経済成長理論(ハロッド＝ドーマー、新古典派成長理論) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第29回	テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長2 内　容:技術進歩の重要性(内生的成長理論) 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
第30回	テーマ(何を学ぶか):総復習(小テスト) 内　容:16回から29回までの総復習・問題演習 教科書・指定図書:教員作成資料(レジュメを配布する)
試　験	第1回から第30回までの内容について試験する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
実証経済分析	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
楠山　大暁 Kusuyama　Hiroaki	**時間：授業実施日の授業時間後** **場所：非常勤講師控え室**	講義および実習

〔科目の概要〕

実証経済分析は 2 年次科目の「統計学」と「計量経済学」に引き続き、初級から中級レベルの計量経済学的手法を学ぶ科目です。

計量経済学では、様々な現象を比例的に捉える線形回帰モデルを発展させることによって、社会経済に潜む因果効果に迫ろうとします。したがって本講義では、「X が増えれば Y が増える」といったような比例的な関係が、単なる相関関係を示しているだけなのか、それとも因果関係を示しているものなのかを見極めるための計量経済学的手法を学ぶことに主眼をおきます。

そのような因果関係に迫るための手法が、重回帰分析、パネルデータ分析、操作変数法といった応用的な分析手法です。本講義では、これらのモデルに関する理論を学ぶとともに、gretl のような初心者向けのフリーソフトを用いて実際にデータ分析を行います。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本講義は 2 年次科目の「統計学」と「計量経済学」の応用科目に位置づけられます。

近年、様々なデータの入手が容易になるにしたがって、「エビデンスに基づく政策形成（EBPM）」の重要性が叫ばれるようになっています。これは、多くの政策領域において、データに基づく因果関係の立証を求められていることを意味します。このようなデータに基づく因果関係の立証に必要不可欠な技術のひとつが計量経済学による実証分析です。

本講義によって、実証分析の手法をマスターできれば、専門書や学術論文の分析結果を読めるようになるだけでなく、将来的には自ら分析を行って、論文を書いたり、政策やマーケティングといった実務の現場に役立てられるようになるでしょう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中級レベルの計量経済学の手法を習得することを目指します。その上で、自らの関心のあるテーマのデータを用いて実証分析を行い、分析結果を適確に報告できるようになることを最終的な到達目標とします。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

今年度から担当するため、該当なし

〔教科書〕

鹿野繁樹（2015）『新しい計量経済学　データで因果関係に迫る』日本評論社

〔指定図書〕

田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』有斐閣
加藤久和（2019）『やさしい計量経済学　プログラミングなしで身につける実証分析』オーム社

〔参考書〕

西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮（2019）『計量経済学』有斐閣

〔前提科目〕

「統計学」、「計量経済学」を履修済みであることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
・レポート３割　・期末試験７割
レポートは、自ら関心のあるテーマに基づいたデータ分析の結果を報告してもらいます。
第１回目の授業で詳細を説明します。

〔評価の基準及びスケール〕
レポートと期末試験の合計点に基づいて評価します。
A:80%以上
B:70%以上、80%未満
C:60%以上、70%未満
D:50%以上、60%未満
F:50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
計量経済学の理論の習得とデータ分析の実践をバランスよく行ってほしいと思います。ぜひ、積極的に授業に臨んで下さい。

〔実務経歴〕
なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション、計量経済学とはなにか？ 内　容: 計量経済学の役割、基本概念の復習 教科書 第１章
第２回	テーマ(何を学ぶか):確率論① 内　容:確率変数とその分布、期待値と分散 教科書 第２章
第３回	テーマ(何を学ぶか):確率論② 内　容:正規分布、２次元の確率変数 教科書 第２章
第４回	テーマ(何を学ぶか):統計的推測① 内　容:標本平均の性質、母数の推定 教科書 第３章
第５回	テーマ(何を学ぶか):統計的推測② 内　容:母数の仮説検定 教科書 第３章
第６回	テーマ(何を学ぶか):単回帰分析① 内　容:OLS 回帰、単回帰によるデータ分析 教科書 第４章
第７回	テーマ(何を学ぶか):単回帰分析② 内　容:古典的回帰モデル 教科書 第５章

第8回	テーマ(何を学ぶか):重回帰分析① 内　容:重回帰モデル、重回帰によるデータ分析 教科書 第6章、第7章
第9回	テーマ(何を学ぶか):重回帰分析② 内　容:回帰モデルの選定、線形制約の仮説検定 教科書 第7章、第8章
第10回	テーマ(何を学ぶか):漸近理論の基礎 内　容:漸近理論、モーメント法、不均一分散に頑健な標準誤差 教科書 第9章、第10章、第11章
第11回	テーマ(何を学ぶか):操作変数法① 内　容:内生性問題、操作変数法、2段階最小2乗法、操作変数によるデータ分析 教科書 第12章
第12回	テーマ(何を学ぶか):操作変数法② 内　容:Ⅳ推定 教科書 第13章
第13回	テーマ(何を学ぶか):実証分析のレポート作成方法 内　容:実証分析の結果のレポート作成 教科書 配布資料による
第14回	テーマ(何を学ぶか):パネルデータ分析① 内　容:固定効果モデル 教科書 第16章
第15回	テーマ(何を学ぶか):パネルデータ分析② 内　容:時間効果モデル 教科書 第16章
試 験	期末試験を実施します。

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
ファイナンス理論		2 単位	専門科目 展開科目
〔担当者〕 國方　明	〔オフィス・アワー〕 **時間：第 1 回授業で伝えます。** **場所：525 号室**		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本科目では、金融にかかわる経済学のうち、証券や証券市場にかかわる部分をより深く学びます。

金融経済学Ⅰでは、ミクロ経済学の知識を使って、金融に関する最低限の理論を学びました。しかし、これらの科目は基幹科目なので、高度な知識な理論を取り上げにくいです。また、時間などの理由により、これらの科目で取り上げられない論点があります。例えば、金融経済学Ⅰで、証券市場を取り上げました。しかし、証券市場で大きな役割を果たす証券会社については、時間の関係で省略しました。

本科目は展開科目なので、金融に対して興味・関心の強い学生に対して、金融経済学Ⅰよりも高度な知識と理論を教えます。但し、本科目は全 15 回しか授業がないので、次の 3 種類の議論だけを取り上げます。

① 第 1 回と第 2 回：金融資産が取引される証券市場の議論、金融経済学Ⅰ第 4 回の応用です。
② 第 3 回～第 8 回：金融資産の価格付けに関する議論、金融経済学Ⅰ第 6 回～第 10 回の応用です。
③ 第 9 回～第 15 回：派生商品などの議論。

また、本科目の名前は「ファイナンス理論」なので、理論の紹介が中心になります。但し、理論を理解するために必要な範囲内で、現実の制度を紹介します。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

＜他の科目との関連付け＞

本科目は、金融経済学Ⅰ、ミクロ経済学、応用ミクロ経済学と統計学の知識に基づきます。まず、本科目の内容は、金融経済学Ⅰの内容を発展させたものです。そして、金融経済学Ⅰで、皆さんはミクロ経済学を金融に応用した理論を学びました。次に、金融では将来予測が重要になります。このため、確率・統計の知識が必要になります。

＜学んだことが何に結びつくか？＞

本科目では、金融経済学Ⅰよりも高度な理論と、(最低限の)制度的な知識を教えます。この結果、現実の金融市場に対する理解が深まると期待します。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

＜最終目標＞

・現実の金融市場を理解できるようになる。

＜中間目標＞

・金融市場にかかわる専門的知識を身につける。
・金融市場にかかわる制度を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2022 年度には、3 年生科目全体よりもまずまず高い評価をいただきました。2023 年度にも高い評価を得られるように努めます。

〔教科書〕

本科目では教科書を使わず、ハンドアウト(俗にいうプリント)を用います。ハンドアウトは下記参考書に基づいて作成されています。

〔指定図書〕

該当無し。

〔参考書〕

参考書 1：　大村敬一、『ファイナンス論』、有斐閣、2010 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)
参考書 2：　大村敬一・俊野雅司、『証券論』、有斐閣、2014 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)

〔前提科目〕

ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学、金融経済学Ⅰ

私は上記科目の単位を取得していない人の履修を制限しません。但しこの人は、各科目のシラバスで指定された教科書などを自習してください。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。

(ア) 授業内小テスト 1 回。択一式です。

(イ) 期末試験。択一式と記述式の併用です。

〔評価の基準及びスケール〕

小テストと期末試験の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを定めます。

A: 80%以上
B: 70%以上、80%未満
C: 60%以上、70%未満
D: 50%以上、60%未満
F: 50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。
- 本科目は金融経済学Ⅰで教えた内容を前提として、それに補足説明を行います。つまり、本科目自体は、金融経済学Ⅰと比べて体系だっていません。このため、金融経済学Ⅰを履修しなかった人や、金融経済学Ⅰを履修して D 評価または F 評価を得た人は相当苦労するでしょう。これらに該当する人は、本科目を履修するか否かを十分に考えてください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内や学内掲示などで連絡します。

〔実務経歴〕

公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、現実の金融市場を理解できるように、金融経済学よりも高度な理論と制度的な知識を身につける授業です。

授業スケジュール

(新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 金融取引と証券会社 内 容: 金融経済学Ⅰ第 12 回を復習して、証券会社の主要業務を学びます。 参考書 1 の第 10 章第 10.1 節。参考書 2 の第 14 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):株式の売買注文とその処理 内 容:株式の売買注文の特徴を学びます。また、注文処理にかかわるルールを 2 つ学びます。 参考書 2 の第 5 章第 3 節。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):株式の投資指標(単一銘柄) 内 容:個別企業の株式のパフォーマンスを測る指標を学びます。一方、ポートフォリオのパフォーマンス指標を第 7 回で学びます。 参考書 該当無し。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 証券の投資収益率にかかわる回帰分析 内 容: 証券の投資収益率を、データを使って分析する場合の回帰式を学びます。また、ポートフォリオのリスクをシステマティック・リスクとアンシステマティック・リスクとに分けて、それぞれの意味を理解します。 参考書 該当無し。

第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： CAPM(1) 内　容： 第5回と第6回で、第4回で紹介した回帰式の理論的基礎を学びます。この理論をCAPM(Capital Asset Pricing Model)と呼びます。CAPM は、一定の仮定を置いたうえで、証券市場が均衡する時に成り立つはずのリターンとシステマティック・リスクの関係を描きます。 第 5 回では、証券市場の均衡を図示します。 参考書 1 の第 8 章。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： CAPM(2) 内　容： 第5回の議論と、金融経済学Ｉで学んだ裁定取引の理論を併せて、リターンとシステマティック・リスクとの関係を図と数式で描きます。 参考書 1 の第 8 章。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)：ポートフォリオの投資指標 内　容：CAPM を応用して、ポートフォリオのパフォーマンスを測る指標を 3 つ学びます。 参考書 1 の第 9 章。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)：CAPM の現実への拡張 内　容：CAPM は精緻であるとともに実用性の高い理論です。しかし、非現実的とも考えられる仮定に基づきます。そこで、CAPM の仮定の一部を外した、より現実的な拡張モデルが開発されています。その拡張モデルを学びます。 参考書 1 の第 8 章第 5 節、同第 10 章。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)：先渡取引 内　容：金融経済学Ｉと本科目第 8 回までで、証券の売買、つまり証券と代金とを交換する取引を教えました。この種類の取引を、原資産取引といいます。本科目第9回～第13回では、原資産取引から派生する取引を教えます。派生して生み出される商品を、派生商品またはデリバティブズといいます。 第 9 回では、派生商品のうち先渡取引を学びます。 参考書 1 の第 11 章第 3 節。参考書 2 の第 10 章。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)：オプション取引(1)・専門用語など 内　容：派生商品のうちオプション取引を教えます。オプション取引は、権利の売買です。売買対象の権利は、「買う権利(コール)」と「売る権利(プット)」の 2 種類に分かれます。したがって、オプション取引に参加する投資家の立場は、「コールを買う」、「コールを売る」、「プットを買う」、「プットを売る」の 4 種類に分かれます。これら立場などを学びます。 なお第 10 回の授業内で、小テストを実施する予定です 。 参考書 1 の第 12 章。参考書 2 の第 11 章。
第 11 回	テーマ(何を学ぶか)：オプション取引(2)・コールの価格決定理論 内　容：裁定取引の理論を応用して、コールを売買する際の価格の決定理論を学びます。 参考書 1 の第 12 章。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか)： オプション取引(3)・プットの価格決定理論 内　容：第 11 回の理論を、プットの価格決定に応用します。その際、プット・コール・パリティという関係を利用します。 参考書 1 の第 12 章。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)： 複数取引を組み合わせた取引(1) 内　容： 第 14 回と第 15 回で、原資産取引、先渡取引、オプション取引を組み合わせた取引を学びます。第 13 回で学んだプット・コール・パリティも、この取引の一種です。第 14 回では、プット・コール・パリティについて、図を使って理解を深めます。 参考書 2 の第 11 章。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)： 複数取引を組み合わせた取引(2) 内　容： プット・コール・パリティ以外の取引を学びます。 参考書 2 の第 11 章。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)： 派生商品の役割 内　容： 第 9 回と第 10 回で学ぶように、理論上、派生商品は社会全体の富を変えません。その一方、現実には派生商品が広く取引されています。このギャップを理解するために、派生商品の役割を学びます。 参考書 2 の第 11 章。
試　験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
社会保障論	2 単位	展開

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
大矢　奈美	**時間:** 授業の開始時に提示します。 **場所:** 研究室(523)	講義

〔科目の概要〕

我が国では、少子・高齢化の進展により、医療、介護、年金、さらには子育て支援といった社会保障制度の重要性が高まっている。また、感染症拡大でも鮮明になったように近年は日本においても深刻な貧困問題が存在しており、その対応の多くを担うのが社会保障制度である。一方で、今後の社会保障関連支出増大をにらみ、税や社会保険料負担の引き上げ、逆に社会保障給付の削減などが検討・実施されている。これらの政策をどのように評価することができるのか。

この講義では、まず社会保障とは何か、その理念とは何かということについて考える。社会保障制度は、「互いに助けあい支えあう」ことを基本として成立しているものと考えられるが、実際の運用には資金が必要となる。これを誰がどのように負担するのかということは重要な問題だろう。よって、本講義では、日本の社会保障制度の概要を主に経済の側面から分析する。

社会保障は範囲も広く、多岐にわたっているため、残念ながら全ての分野について取り上げることは難しい。そこで個別の制度として公的年金と医療制度、および生活保護を取り扱い、それ以外の制度はレポート課題の設定などによって受講生が独自に学ぶような仕組みにしたい。また、社会保障制度は社会の変化に対応する必要もあるため、政府内でも継続して改正案が検討され、細かな変更が重ねられている。また、新型コロナウイルス対応で例年とは異なる要素もある。本講義では、制度に関しては 2023 年 3 月時点の現行制度のうち普遍的なものを主な対象とし、適宜、改革案などについて紹介することとする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

現代日本人の生活は、社会保険を中心とした社会保障制度によって支えられている。たとえば公的医療保険。日本では一部の例外を除き、全国民が加入することになっており、自己負担３割で医療サービスを受けることができるが、産業構造や日本人の年齢構成が変化し、医療が高度化していくなかで、この医療保険制度も様々な問題を抱えている。公的年金制度も、私たちが意識している以上に身近な存在だ。長生きをしてしまうリスクだけでなく、働き盛りに事故に遭遇し障害をおってしまうリスク、家族を遺して死亡してしまうリスクが発生した際に所得を保障する役割を持っている。しかし、人口構成の変化によって給付水準の維持が難しくなり、それが制度に対する国民の不安・不信をもたらすという悪循環や、非正規雇用の拡大にともなう将来の低年金リスクを抱えた層の拡大懸念など、公的年金制度が抱える問題も多い。果たして、多くの報道記事に見られるように日本の社会保障制度は信頼に値しないものなのだろうか。

講義を通じ、社会保障制度とは何か、どのような理念に立つものか、現行制度の仕組みや問題点、どのような方向性が望まれるのかを考えることにより、この問題への答えの手がかりを得ることができるかもしれない。

この講義では社会保障の問題を日本経済と結び付けて検討するというアプローチをとる。よって、１年時次に履修する日本経済概論およびミクロ経済学、２年次に履修するマクロ経済学の知識を前提とする。社会保障関連支出を考えるにあたっては、政府の財政状況に関する知識（財政学）、経済統計で扱った統計に関する知識も必要になる。また社会保障制度には雇用・生活扶助に関するものも含まれるので、労働経済学にも重なる分野でもある。これらを履修済みであることが望ましいが、財政学、労働経済学の関連する分野については講義中に適宜説明することを考えている。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・社会保障の意義について、受講生自身が、自分の意見を持つ。
・日本の社会保障制度の枠組みを把握する。
・公的年金、医療などの社会保険制度や公的扶助の概要を理解し、これらの制度改革に対する自分なりの意見を持つ。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

提示資料の見やすさについてのコメントがあった。できるだけ見やすくなるよう、努める。
また口頭での説明がより明瞭になるよう、心がける。

〔教科書〕
特に指定しない。

〔指定図書〕
・椋野・田中『はじめての社会保障』（第20版）有斐閣，2023年3月末刊行見込み（たぶん）
・小塩隆士『社会保障の経済学』（第4版）日本評論社，2013.

〔参考書〕
・西村淳編著『入門テキスト　社会保障の基礎』第2版、東洋経済新報社，2022.
その他、必要に応じて授業中に提示する。

〔前提科目〕
マクロ経済学、財政学、労働経済学　など。
財政学、労働経済学に関連する分野については講義中に適宜説明を加える予定であるが、特に財政学は履修済みもしくは履修中であることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
・理解度確認のためのクイズ
・小レポート
・期末試験（筆記）

〔評価の基準及びスケール〕
小レポート、クイズ、期末試験の合計の80%以上をA、70%以上80%未満をB、60%以上70%未満をC、50%以上60%未満をD、50%未満をFとする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
受講生の理解度を見ながら進度を決定するので、シラバスの通りには進まない可能性がある（制度変更の状況にも左右される）。また、一つのテーマを複数時間に分けて講義するので、可能な限り出席するようにすること。出席はとらないが、出席していることが基本であるから、それを前提に講義を進める。

限られた授業時間数の中では、個別の社会保障制度について詳細に説明するのは難しく、また受講生にとっても講義のみで理解することは不可能だと思う。すくなくとも制度の概要程度は、指定図書を参考に、自ら把握するよう自習すること。椋野・田中『はじめての社会保障』は制度について詳細かつ丁寧に整理されている。
社会保障は、私達の生活に深い関わりあいを持っている。自分なりの興味や関心を持って、授業に臨んでほしい。

〔実務経歴〕
なし

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）：　社会保障とは何か 内　容：　ガイダンス、社会保障の考え方（1）　社会保障とは何か、歴史的展開 教科書・指定図書　　椋野・田中（2023年3月末刊行予定のため、該当する章については講義の中で説明する。以下、同様），小塩（第1章）など
第2回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　社会保障の考え方（2）　日本の社会保障制度の展開と時代背景 教科書・指定図書　　椋野・田中
第3回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　社会保障の考え方（3）　政府の介入が必要とされる理由、負担と給付のあり方 教科書・指定図書　　小塩（第1章）

第4回	テーマ（何を学ぶか）：　社会保障と国民負担・財政収支（1） 内　容：　国民経済計算，マクロ統計からみた社会保障 教科書・指定図書　　小塩（第2章）
第5回	テーマ（何を学ぶか）：　社会保障と国民負担・財政収支（2）、社会保障の担い手 内　容：　財政収支と国民負担 　　社会保障における実施主体 教科書・指定図書　　小塩（第2章）
第6回	テーマ（何を学ぶか）：　所得再分配に対する社会保障の役割 内　容：　日本の所得格差、再分配後の所得格差 教科書・指定図書　　小塩（第3章）
第7回	テーマ（何を学ぶか）：社会保障制度の概要についてのまとめ 内　容：社会保障制度の概要の確認　および　クイズによる理解度の確認
第8回	テーマ（何を学ぶか）：　公的年金制度 内　容：　公的年金制度の意義と体系、財政 教科書・指定図書　　椋野・田中，小塩（第4章）
第9回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　公的年金制度の理念と仕組み 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　公的年金制度の抱える問題点と制度改革 教科書・指定図書　　小塩（第4～6章）
第11回	テーマ（何を学ぶか）：　医療保険制度 内　容：　医療保険制度の理念と仕組み（1） 教科書・指定図書　　椋野・田中，小塩（第7章）
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　医療保険制度の理念と仕組み（2） 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　医療保険制度の抱える問題点 教科書・指定図書　　小塩（第7・8章）
第14回	テーマ（何を学ぶか）：公的扶助 内　容：　生活保護制度の概要 教科書・指定図書　　椋野・田中
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　生活保護制度の課題 教科書・指定図書　　椋野・田中，小塩（第10章）
試　験	授業で扱った内容全てについて筆記試験をおこなう

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経済特殊講義Ⅲ	2 単位	専門科目 選択

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
堤　　静 子 TSUTSUMI Shizuko	時間：質問は講義内で配付するコメントシートで。 場所：　ー	講義

〔科目の概要〕

近年、「地域づくり」や「地域活性化」といったフレーズをよく耳にするようになり、地域経済、地域産業に対する興味・関心は高まりをみせているが、地方の人口減少の影響もあり、地域経済を支えてきた産業も低迷していることも事実であり、様々な課題を抱えながらも、新たな産業振興策や地域産業の創出に関する取り組みが進められている。

本講義では、地域と産業の関わりを捉え、地域を支えている産業の現状を把握し、地域資源を活用した新たな取り組み事例を紹介し、地域資源を活かした地域力向上策や地域産業振興に向けた地域ブランドの確立等、地域住民や自治体の政策について学ぶ。また、新たな地域産業として、地域住民が主体となり、ビジネスの手法で地域課題を解決するコミュニティビジネスも育ってきており、まちづくりも含めた様々な取り組みについても考察する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地域産業を通じて地域の特性、市場を知り、地域資源の活用事例や地域産業活性化、振興のための事業活動等について具体的に学ぶことで、地域社会のあり方を考え、自分たちが暮らす地域の課題解決の方策策定や、新たな価値創出に向けた取組に関する思考力を高めることができる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・地域産業の現状と地域と課題を理解し、自分なりの課題解決策をイメージできる。
・地域産業を通じて地域資源の活用手法や地域産業振興のための具体的方策について修得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

丁寧な板書を心がける。

〔教科書〕

毎回の講義でレジュメを配付する。

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

講義内で適宜紹介する。

〔前提科目〕

特になし。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

講義内に実施する小テスト、定期試験により総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

評価　：得点比率
A　：　80％　～　100％
B　：　70％　～　80％未満
C　：　60％　～　70％未満
D　：　50％　～　60％未満
F　：　50％未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

青森県はもちろんのこと、学生の皆さんそれぞれの生まれ育った地域など、様々な地域への興味・関心、理解を広げ深めてほしい。また、授業の理解度の確認や質問の受付等、次の授業へ活かすためにコメントシートを毎回配付し記述し提出してもらう。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション・産業とは 内　容： 授業の進め方や学修内容、評価方法などについてのイントロダクション。 産業とは何か？経済の基本問題について 講義配付レジュメ
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域とは 内　容： 地域とは何か？地域を学ぶ意義について 講義配付レジュメ
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域産業政策の変遷 内　容： これまでの地域における産業政策の変遷について 講義配付レジュメ
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域の産業構造 内　容： 人口と産業構造の変化について 講義配付レジュメ
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題① 内　容： 農業・林業について 講義配付レジュメ
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題② 内　容： 水産業について 講義配付レジュメ
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題③ 内　容： 製造業について 講義配付レジュメ
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題④ 内　容： 交通・運輸について 講義配付レジュメ
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題⑤ 内　容： 観光業について 講義配付レジュメ
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題⑥ 内　容： その他各種産業について 講義配付レジュメ

第 11 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域資源を活用した事業事例① 内　容： ものづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域資源を活用した事業事例② 内　容： まちづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域産業モデル① 内　容： 海外地域モデル 講義配付レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域産業モデル② 内　容： 国内地域モデル 講義配付レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域資源の付加価値力 内　容： 地域産業振興に向けた地域ブランドの確立 講義配付レジュメ
試　験	期末試験を実施する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域の産業Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
（まつだ　えいじ） 松田　英嗣	時間: 場所:	

〔科目の概要〕

地元金融機関出身で、現在は地域シンクタンク勤務の講師が担当します。
授業前半の 30 分程度は、日本経済新聞などの経済関連記事をもとに、経済社会の動きを理解するとともに、経済の仕組みや当該記事の意味を受講生の皆さんと考えながら、地域経済や産業を見る目を養います。
授業後半は、地域産業を概観するとともに、地域が抱える課題や地域産業の課題などについて学びます。
地域経済を見るうえで、最低限覚えるべき数字はもれなく伝えます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

社会はダイナミックな変化の只中にあります。
学生の皆さんが、今後社会に出て数十年を過ごす中では、これまで誰も直面したことのない正解のない課題に数多く遭遇することが想定されます。
そうした局面においては、しっかりと自分なりの見方、考え方を持つ力が求められます。
本授業では、産業・経済を切り口としながら、正解のない課題に対応するための考え方を身に着けます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標:経済系学部生として、当然に身に着けるべき力として、日本経済新聞を自力で読むための知識を習得する

最終目標:多様な経済ニュースに対して、自分なりの解釈ができる応用力を身に着けるとともに、
青森県経済が抱える課題を把握できる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

エアコン温度調整、マスク着用時の声のトーンに配慮します
2 年間経済を学んだ前提での授業レベルを指向します

〔教科書〕
講師が都度レジメを準備します

〔指定図書〕
必要に応じ都度提示します

〔参考書〕
必要に応じ都度提示します

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
出席状況を含む授業の取り組み姿勢 30%、記述試験 70%の割合で総合的に評価します

〔評価の基準及びスケール〕
評価スケールは大学のスタンダードを基準にします

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
受講者の理解と興味を深めるため、経済の話を簡潔に理解できるよう努めるとともに、可能な限り実務経験に基づいた事例や最新の経済ネタを取り上げます。
また、極力受講者との双方向性を確保する授業スタイルとします。

〔実務経歴〕
地域金融機関および金融系シンクタンク

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内　容: 授業の進め方説明　日本経済新聞の読み方 教科書・指定図書　:教員作成
第2回	テーマ(何を学ぶか):経済の見方1 内　容: 経済とは何か(経済に慣れる) 教科書・指定図書　:教員準備
第3回	テーマ(何を学ぶか):経済の見方2 内　容: 需要と供給から経済を考える(経済的考え方に慣れる) 教科書・指定図書　:教員準備
第4回	テーマ(何を学ぶか):経済の見方3 内　容: 地域産業と人口減少(人口減少のインパクトを考える) 教科書・指定図書　:教員作成
第5回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済1 内　容: 青森県経済を俯瞰する(「県民経済計算」の見方) 教科書・指定図書　:教員作成
第6回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済2 内　容: ビジネスモデルを考える(コンビニエンスストアやリンゴ産業からビジネスモデルを考える) 教科書・指定図書　:教員作成
第7回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済3 内　容: 攻めの農林水産業を考える(県農業をもとに「特化係数」を使いこなす) 教科書・指定図書　:教員作成
第8回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済4 内　容: 製造業の可能性を考える(「経済波及効果」の考え方をマスターする) 教科書・指定図書　:教員作成
第9回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済5 内　容: 三次産業の中で小売業を考える(買い物難民をどうする) 教科書・指定図書　:教員作成
第10回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済6 内　容: 観光関連産業を考える(なぜ数少ない成長産業として期待されるのか) 教科書・指定図書　:教員作成

第11回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済7 内　容： IT産業を考える(ITで地域課題解決を図る企業を紹介) 教科書・指定図書　:教員作成
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済8 内　容： 地方創生と地域おこし活動(地方創生の中で輝きを増す活動を紹介) 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか)：青森県の産業・経済9 内　容： 地域金融機関と労働需給 教科書・指定図書　:教員作成
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 復習・まとめ 内　容： 1～13回の授業内容を振り返る 教科書・指定図書　:教員作成
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 復習・まとめ 内　容： 1～13回の授業内容を振り返る 教科書・指定図書　:教員作成
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
自然史・地理情報と地域創造	2 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
三浦　英樹	**時間:** 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) **場所:** 研究室(大学院棟 1203 室)	講義・演習

〔科目の概要〕

「地形地理情報論」では、自然を理解し、把握するための基本となる地形・地質学と地理空間情報学の基礎について学んだ。この講義では、これらの基礎的知識をもとに、さらに自然環境全般とその歴史に視点を広げ、自然と人間との関係はどのようにあるべきかという現代的課題について、以下の観点から考えることを目指します。

① 物理化学の限界を踏まえたうえで、自然史科学の視点で自然と人間の関係を捉えることの意味
② 世界と日本で生じた様々な環境問題の内容と人間との関係
③ 人文社会科学の視点で見た環境問題の考え方と自然科学および人間との関係
④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史の概要とその意義
⑤ 青森県の自然公園・保護地域の特徴とそれらの地域の自然史がもつ意義
⑥ 自然と人間との関係を前向きに捉えるための方法としての「エコツーリズム」、「エコミュージアム」の在り方と課題

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

これまでに学んだ地形地質学や地理空間情報学の知識を基礎として、さらに学問分野の壁を越えた様々な視点で自然環境を十分に読み取り、それらの価値や楽しみ方を知ることは、自然と人間の関係を考えていく上での基本的に必要な知識になります。それは、さらに持続可能なかたちで人類が生き残るための社会的な課題に対する方策を検討したり、地域創造への新たな発想やアイデアを生み出すための力ともなるはずです。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。

① 自然と人間の関係を考える上での「自然史」の意義を理解すること
② 人類が抱えてきた環境問題の内容ついて理解し、それらに問題に対する自分の考えを持つこと
③ 自然と人間の関係に関するこれまでの人文社会科学的な考え方の基礎について理解すること
④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史に関する知識を習得して、その意義について理解すること
⑤ 青森県の自然公園・保護地域の知識を習得して、その意義について理解すること
⑥ 地域の自然や文化を生かした地域作りに関する基礎知識を得て、自分の考えを持つこと

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

新規担当のため、なし。

〔教科書〕

ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。

〔指定図書〕

ありません。

〔参考書〕

赤坂憲雄 (2020)『民俗知は可能か』春秋社.
アルド・レオポルド(新島義昭訳)(1997)『野生のうたが聞こえる』. 講談社学術文庫.
石牟礼道子 (2004)『新装版　苦界浄土』講談社文庫.
岩田修二 (2018)『統合自然地理学』東京大学出版会.
大熊　孝 (2020)『洪水と水害をとらえなおす―自然観の転換と川の共生』農山漁村文化協会.
小野有五 (1999)『ヒマラヤで考えたこと』岩波ジュニア新書.
小野有五 (1999)『たたかう地理学-Active Geography』古今書院.
加藤尚武 (2000)『環境倫理学のすすめ(増補新版)』. 丸善出版.
加藤尚武 (2000)『新・環境倫理学のすすめ(増補新版)』. 丸善出版.
小池一之ほか編著 (2005)『日本の地形 3 東北』. 東京大学出版会.
小島圭二ほか編著 (1997)『日本の自然　地域編 2 東北』. 岩波書店.
清水　展・飯嶋秀治 (2020)『自前の思想 時代と社会に応答するフィールドワーク』京都大学学術出版会.
菅　豊 (2013)『「新しい野の学問」の時代へ』農山漁村文化協会.
高木仁三郎 (1998)『いま自然をどうみるか 増補新版』白水社.
武内和彦・鷲谷いずみ・恒川篤史編著 (2001)『里山の環境学』. 東京大学出版会.
中村桂子 (2013)『科学者が人間であること』岩波新書.

中谷宇吉郎（2015）『雪』岩波文庫.
日本野鳥の会編（2003）『市民が止めた！千歳川放水路―公共事業を変える道すじ』 北海道新聞社.
羽生淳子・佐々木剛・福永真弓編著(2018)『やま・かわ・うみの知をつなぐ 東北における在来知と環境教育の現在』東海大学出版部.
日浦 勇（1975）『自然観察入門 草木虫魚とのつきあい』中公新書.
日高敏隆（2013）『世界を、こんなふうに見てごらん』. 集英社文庫.
松下和夫（ 2022）『1.5℃の気候危機』. EHESC 出版局.
レイチェル・カーソン（青樹築一訳）（2019）『沈黙の春』. 新潮文庫.
レイチェル・カーソン（上遠恵子訳）（2021）『センス・オブ・ワンダー』. 新潮文庫.
若松伸彦・上高地自然史研究会（2016）『上高地の自然誌:地形の変化と河畔林の動態・保全.』. 東海大学出版部.

〔前提科目〕
専門科目の「地形地理情報論」を履修していることを前提とします。なお、必須ではありませんが、教養科目の「地球科学」を履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
① 授業の最後には、「リアクションペーパー」の時間を設けて、提出してもらいます。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、または重要な意見・質問は、できるだけ、次の授業の冒頭で紹介・回答します。
② 「最終レポート」は、指示する課題に対して記述してください。一般論や他人の借り物の考えではなく、自分の中にある問題意識と照らし合わせて、自分自身の深い考えや自分が思うところ、感じたことを記述することが大切です。

〔評価の基準及びスケール〕
① 「リアクションペーパー」では、感じたこと、自分が考えたこと、講義内容への質問や意見などを書いてもらい、記述内容のわかりやすさや論理性、および授業内容への関心や取り組む姿勢を総合的に評価します。
② 「最終レポート」は、課題の要件を満たしていること、他人が理解できる文章を書いていること、自分の中にある問題意識や考えを自分なりの言葉で表現していること、を基準にして評価します。
③ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価 60%、「最終レポート」の評価 40%の比率で、すべてを合算して、合計 100 点満点(A:80 点以上、B:70～79 点、C:60～60 点、D:50～59 点、E:50 点以下)で評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
人類の歴史 700 万年の中でも、ここ 50 年程の人類を取り囲む変化は、地球規模でみても、日本という国レベルでみても、過去に例を見ないような異常な大きな変化になっています。なぜ、どこがそんなに異常なのか、それを理解するためには、自然と人間の歴史を見つめ直して、両者の関係を考えていく必要があります。また、身近に存在する自然や現象の不思議さや美しさを知ることは、自然の中で生かされている人間というものの存在を再認識する原点にもなります。この授業では、このような視点で、少し「浮世離れ、現実離れ」したかたちで、授業を行いますが、こういう話は大学でなければできないことだと思っています。この講義で何かの刺激を受けて、地球の中で生きている自分、自然の一部である人間という立場で、自分を客観視して、そのうえで地域研究の「良き問い」を立てられるように人になって欲しいと思います。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか)： (1)イントロダクション： 自然史とは何か 内　容: 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景について概説します(キーワードは、第四紀の生態系・環境変動、自然と人間の関係、自然観、地球規模の課題と地域の課題の関係、人新世、ネイチャーライティングとエコクリティシズム、地理情報システムの活用)。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)： (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と自然保護 内　容: 日本における公害問題を中心とした環境問題の歴史とそれに対する対応について概説します。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)： (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世 内　容: 地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済と、関連する概念について概説します。 教科書・指定図書

第4回	テーマ(何を学ぶか)：(2)世界と日本の環境問題の歴史と内容：③自然と人間の関係に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み 内　容：風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知について概説します。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)：(3)環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎 内　容：地球という惑星の中での自然と人間の関係を考察するため、環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎について概説します。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか)：(4)日本列島と青森県の自然環境と自然史：①地形と地質と陸水 内　容:日本列島と青森県の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、川と湿地とため池と温泉と地震と津波について概説します。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか)：(4)日本列島と青森県の自然環境と自然史：②気象と雪氷と海洋 内　容:日本列島と青森県の気象と雪氷と海洋に関わるモンスーン、雪氷の形成、海面変化と海流の変化について概説します。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)：(4)日本列島と青森県の自然環境と自然史：③植物と動物と昆虫 内　容:日本列島と青森県の第四紀の環境変動と生物分布、農林水産業に関わる生物の特徴について概説します。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか)：(4)日本列島と青森県の自然環境と自然史：④土壌と考古遺跡 内　容:日本列島と青森県における土のでき方、人類の移動、遺跡の分布、世界遺産である北海道・北東北の縄文遺跡群について概説します。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか)：(5)青森県の自然公園・保護地域と自然史：①概要、十和田・八幡平国立公園 内　容：自然公園・自然保護地域の概要と、十和田・八幡平国立公園の歴史や自然について学び、その価値と意味について考えてもらいます。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか)：(5)青森県の自然公園・保護地域と自然史：②津軽国定公園と世界自然遺産・白神山地 内　容：津軽国定公園と世界自然遺産・白神山地の歴史や自然史について学び、その価値と意味について考えてもらいます。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか)：(5)青森県の自然公園・保護地域と自然史：③下北半島国定公園と下北ジオパーク 内　容：下北半島国定公園と下北ジオパークの歴史や自然史について学び、その価値と意味について考えてもらいます。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか)：(5)青森県の自然公園・保護地域と自然史：④三陸復興国立公園、その他の県立自然公園 内　容：三陸復興国立公園、その他の青森の県立自然公園の歴史や自然史について学び、その価値と意味について考えてもらいます。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか)：(6)地様々な課題を背景とした自然と人と地域を結びつける取り組み：①エコツーリズムと自然体験教育 内　容：全国各地のエコツーリズムの事例を紹介し、青森県における導入の可能性について考えてもらいます。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか)：(6)様々な課題を背景とした自然と人と地域を結びつける取り組み：②エコミュージアムと地域の魅力の発見 内　容：全国各地のエコミュージアムの事例を紹介し、青森県における導入の可能性について考えてもらいます。 教科書・指定図書

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域みらい特殊講義Ⅱ	2 単位	展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
柏谷　至 KASHIWAYA Itaru	**時間:** 授業開始前・終了後各 30 分程度 **場所:** 非常勤講師控室	講義

〔科目の概要〕

この授業のテーマは、「エネルギーから見た地域社会論」です。

エネルギーは、私たちの生活に必要不可欠な要素であり、エネルギーの利用形態によって地域社会のありようは大きく変化します。近年では、地球温暖化や原発事故のようなグローバルな課題だけでなく、エネルギー費用が地域外に流出することによる地域経済への影響なども問題視されるようになってきました。こうした状況のもとで、地域にあるエネルギー資源を活かし、地域に利益が残るかたちで利用する「エネルギー自立」の考え方が広まりつつあります。

青森県は、冬期間の暖房を中心にエネルギー消費量が全国より多く、特に化石燃料への依存度が高いという特徴があります。豊かな自然環境を背景に再生可能エネルギーのポテンシャルが高い一方で、地域外資本による開発事例が多く、地域社会に利益が十分に還元できていないことも課題です。

授業担当者は環境社会学者として教育・研究に従事しながら、「自然エネルギーを通じた循環型社会の実現と地域の自立」をミッションとするNPOの理事長を務めています。この授業では県内外の事例を紹介しながら、地域のエネルギー自立に向けた現状と課題、将来展望を考えます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

エネルギーというと、科学技術の問題（=いわゆる「理系」の人が考えること）と考えられがちですが、地域のエネルギーを考える際には、人々の意識から生活、組織、経済や制度・政策にわたるさまざまな側面を、トータルに考える必要があります。この授業は「特殊講義」のひとつとして、地域の社会・経済・政策に関して皆さんが今まで学んできたことを活用し、地域の未来について自ら考える機会と位置づけられます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標:

・エネルギーの観点から地域の現状・課題を把握し、解決策を提案できるようになる

中間目標:

・エネルギーと地域社会との関係についての基本的な知識を身につける

・「エネルギー自立」の考え方とその手法を理解する

・自らが住む地域の現状や課題を、エネルギーの問題と結びつけて考えることができるようになる

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2022 年度の授業評価ではおおむね高い評価をいただきました、今年度は、受講者の皆さん自身が地域エネルギー事業を企画・立案する授業内容を充実させていきたいと考えています。

〔教科書〕

特に指定しません。

〔指定図書〕

特に指定しません。

〔参考書〕

枝廣 淳子 2018『地元経済を創りなおす―分析・診断・対策』岩波書店.

藻谷 浩介・NHK 広島取材班 2013『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で動く』角川書店.

田中 信一郎 2018『信州はエネルギーシフトする―環境先進国・ドイツをめざす長野県』築地書館.

〔前提科目〕

特に指定しません。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

各回の授業では、次回の授業の予習となる課題を出します。課題の内　容としては、テーマに関する短いテキストや動画を見たり、皆さんの身近なエネルギーについて調べたりして、ワークシートに記入して提出してもらう予定です。

また、毎回の授業の最後には、その日の講義内 容に関する質問の時間を取ります。質問者には、質問内 容とそれへの答え、質問をしてみての感想を提出していただきます。15 回の講義の中で、2 回以上質問することを義務づけます。

この授業の最終評価物として、再生可能エネルギーや省エネルギーを活用して地域の課題を解決するための企画提案を、レポートとしてまとめてもらいます。15回の授業の後半は、レポート作成に向けたワークシートを作成・提出してもらいます。

以上の 4 点、すなわち (1)予習ワークシートの提出、(2)授業中の質問、(3)企画提案ワークシートの提出、(4)最終レポートの内 容を総合して、この授業の評価とします。

〔評価の基準及びスケール〕

各評価項目は、予習ワークシートの提出10点、授業中の質問 20点、企画提案ワークシートの提出10点、最終レポートの内 容 60 点で点数化します。なお、最終レポートは、(1)テーマ設定の独創性、(2)企画としての実現可能性、(3)レポートの文章力と資料活用の適切性、から評価します。

100 点満点の評点を、大学の成績評価基準に従って A～F のグレードに評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

この授業では、単にエネルギーに関する知識を伝えるだけでなく、地域の課題に取り組むことの面白さや難しさを学生に体験してもらいたいと思っています。そのため、授業方法として講義形式のほか、ワークショップや学生による企画立案・プレゼンテーションを取り入れる予定です。

受講する学生の皆さんには、授業中および授業外学習での主体的な参加を期待します。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーから地域社会を考える (イントロダクション) 内 容： エネルギー自立を目指す地域の取り組みの実例を紹介し、この授業全体のねらいを示すとともに、授業の進め方や学修内容、評価方法などについてイントロダクションを行う。
第2回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(1)・エネルギー自立の考え方 内 容： エネルギー自立の考え方が登場してきた背景や先駆的な実践例を紹介し、エネルギー自立の基礎概念について学ぶ。
第3回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(2)・風力 内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしての風力発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第4回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(3)・太陽光と太陽熱 内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしての太陽光発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第5回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(4)・バイオマス 内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしてのバイオマスエネルギーの特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第6回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(5)・省エネルギー 内 容： 代表的な省エネルギーの取り組みとして、住宅の高気密・高断熱化によって快適性と省エネルギーとを両立させる取り組みについて学ぶ。
第7回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会 (中間まとめ) 内 容： これまでの講義を振り返りながら、エネルギーと地域社会との関わりや、再生可能エネルギー・省エネルギーを地域課題の解決に結びつける方法論を学ぶ。
第8回	テーマ(何を学ぶか)： ワークショップ(1) 内 容： ワークショップを通じて、再生可能エネルギーと省エネルギーを地域課題の解決に役立てる手法を自ら体験する。

第9回	テーマ(何を学ぶか)： 地域エネルギー事業の実際(1) 内 容： 地域事業の企画・立案の出発点となる地域資源の種類や規模、資源利用に当たっての制約条件について学ぶ。
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 地域エネルギー事業の実際(2) 内 容： 地域エネルギー事業を運営していく際のビジネスモデルや収益構造・コスト構造や、資金計画について学ぶ。
第11回	テーマ(何を学ぶか)：地域エネルギー事業の実際(3) 内 容： 地域エネルギー事業を運営する主体と組織形態、ステークホルダーとの関係、法的規制と政策について学ぶ。
第12回	テーマ(何を学ぶか)：ワークショップ(2) 内 容： ワークショップを通じて、最終レポート作成に向けた企画のアイディア出しと相互評価を行い、エネルギーを通じた地域課題の解決を実践するためのトレーニングをする。【企画提案ワークシート提出日（予定）】
第13回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーから見た地域社会の未来(1) 内 容： 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る。
第14回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーから見た地域社会の未来(2) 内 容： 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る（第14回の続き)。
第15回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーから見た地域社会の未来(3) 内 容： 前回までに発表された地域エネルギー事業プランを振り返りながら、この授業で学んできたエネルギーと地域社会との関わりについて、総括的な議論を行う。
試 験	レポート

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営革新論Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田泰亮　Ikuta Yasuaki	**時間:** 後ほど指示します。 **場所:** 1305 研究室（大学院棟）	講義

〔科目の概要〕

経営において、新たな視点や価値を見出すものとしてのイノベーションは、その実現可能性や持続可能性をも問わなくてはならない。こうした意味から「事業創成のプロセスとしてのイノベーション」を学ぶことは、やがてビジネス・リーダーとして期待されるみなさんにとって、学んでおくべき重要な内容である。

前半は、シュンペーター、ドラッカー等をもとに、イノベーション本来の意味、イノベーションが経営や経済に与える影響について講義する。中盤からは、「事業創成の理論（小林敏男『事業創成　イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。）」をもとに「イノベーションと事業」の関係を講義する。様々な事業での実践例をもとに、創造的な技術やアイディアが持続可能な事業と成るまでのプロセスを学び、真のイノベーションとは何かを考える。

ビデオ学習により、学んだ概念やモデルの理解度を深めることとする。

また、秋学期開講の「経営革新論Ⅱ」と大いに関連性があるので、両講義ともに受講することを強く推奨する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

経営経済の問題を考える際に「イノベーション」は、よく耳にする言葉であるが、本講義では、イノベーションの本来の意味を理解し、現代企業の事業戦略をしっかりと学習し、戦略的発想力、戦略策定力を身につけてほしい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標：様々な企業の事業戦略を読み解く力を身につける。

最終目標：事業創成（事業の創造から実行可能性、持続可能性まで）を考える力を身につける。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

専門用語等で難しいとの意見がありますが、使用している教科書のレベルが極端に難解であるということはありません。事前に予習し、わからないことは、講義中、講義終了後、オフィスアワーなど、遠慮なく質問してください。

〔教科書〕

小林敏男『事業創成　イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。

※経営革新論Ⅱでも使用する。

他、適宜資料を配布する。

〔参考書〕

伊丹敬之『先生、イノベーションって何ですか？』PHP 研究所、2015 年。

J.A.シュンペーター著、清成忠男編訳『企業家とは何か』東洋経済新報社、1998 年。

P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳『イノベーションと企業家精神【エッセンシャル版】』ダイヤモンド社、2015 年。

C.クリステンセン著、玉田 俊平太 監修、伊豆原 弓 翻訳『イノベーションのジレンマ―技術革新が巨大企業を滅ぼすとき〔増補改訂版〕』翔泳社 2001 年。

A.ガワー、M.A.クスマノ著、小林敏男監訳『プラットフォーム・リーダーシップ―イノベーションを導く新しい経営戦略』有斐閣、2005 年。

G.A.ムーア著、川又政治訳『キャズム Ver.2 増補改訂版 新商品をブレイクさせる「超」マーケティング理論』翔泳社、2014 年。

M.E.ポーター著、竹内弘高訳『［新版］競争戦略論（Ⅰ）（Ⅱ）』ダイヤモンド社、2018 年。

O.E.ウィリアムソン著、浅沼萬里、岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980 年。

〔参考書〕

なし

〔前提科目〕

経営学基礎論を履修し単位取得していること。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

小レポート（50%）　※複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。

学期末の定期試験（50%）

※無断欠席は評価の際に減点とする。

〔評価の基準及びスケール〕
80%以上　A　　79−70%　B　　69−60%　C　　59−50%　D　　49%以下　F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
事例においては、かなり難解な技術や様々な業界について取り上げることになります。専門技術や未知の分野に対して学習する基礎力が身について欲しいとと考えています。丁寧に説明するよう心がけますが、予習をしっかりとしてください。様々なイノベーションの事例を学び、柔軟な思考力を養って欲しいと考えています。質問や学習相談などは遠慮なく。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：　イントロダクション 内　容:　講義内容と進め方について（※講義についての説明を行うのでシラバス持参のこと） 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)：シュンペーターのイノベーション論(1) 内　容:経済発展と経営者、企業者の役割 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)：シュンペーターのイノベーション論(2) 内　容:新結合としての5つのパターン 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか)：ドラッカーのイノベーション論(1) 内　容:イノベーションのための7つの機会 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)：ドラッカーのイノベーション論(2) 内　容:イノベーションと企業家精神 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(1) 内　容:教科書　第1章　古典的戦略論 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(2) 内　容:教科書　第2章　イノベーションのジレンマ 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(3) 内　容:教科書　第3章　オープンイノベーションへの展開 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(4) 内　容:教科書　第4章　プラットフォーム・リーダーシップ 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(5) 内　容:教科書　第5章　キャズムの発見 教科書・指定図書

第11回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(6) 内　容:教科書 第6章 エコロジカルニッチの薦め 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(7) 内　容:教科書 補論 組織間関係の経済学 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(1) 内　容:ビデオ学習を予定 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(2) 内　容:ビデオ学習を予定 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):講義全体のまとめ 内　容: 教科書・指定図書
試 験	有(詳細は後日、指示する)

（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営情報論	2 単位	選択

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
古賀広志 KOGA Hiroshi	**時間:** 集中講義なので講義間の休憩時間に **場所:** 教室で対応します	講義

〔科目の概要〕

本講義では，経営情報論研究において現在主流となっている「社会構成主義・社会物質性」の視点を採用し，新しい経営情報論の考え方について概説する．加えて，現在急速に進行しつつある DX（Digital Transformation）環境と呼ばれる高度で先進的なデジタルネットワーク環境の活用について概説する．さらに，情報社会ならびに情報倫理の議論を，明確に経営情報論の理論体系の中に位置づけることで，ビジネスの世界における経営情報の考え方を包括的に説明していく．

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

企業活動を題材とする講義科目の中で，企業活動を情報とシステムの視点から捉える応用科目に位置づけられる．
情報化は現代企業の重要課題の１つであることから，たとえば「IT パスポート試験」の基礎知識の習得，あるいは『情報通信白書』などを通読するための基礎知識を習得することは，将来のキャリア形成においても無視できないと思われる．本講義で学修した内容は「すぐに役立つノウハウ集」ではないが，これからの企業活動を理解する上で有益なヒントを与えてくれると思われる．

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標：情報通信技術（ICT）を使いこなすために，経営情報の考え方や経営情報システムの特性を理解し，現状の分析，システム構築方法論などを理解してもらうこと

最終目標：情報通信技術の開発と利用がもたらす社会・倫理・法的問題（ELSI：Ethical, Legal and Social Issues）に関する知見を体得し，責任ある開発とイノベーション（RRI：Responsible Research and Innovation）の立場を理解した人材となること．
ネットワーク化されたビジネス環境ならびに社会に対して自律的な市民として主体的・積極的に参加できる人材に育って欲しい．

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

今回初めての講義なので，以前の「授業評価」はありません．

〔教科書〕

遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣アルマ

〔指定図書〕

必要に応じて紹介します．

〔参考書〕

必要に応じて紹介します．

〔前提科目〕

なし．

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

集中講義なので最終日に試験を行います.

講義時間中に小テスト(ミニッツペーパー)を課します.

〔評価の基準及びスケール〕

・スケールは、「学生便覧」の「成績評価」を参考にします.

・良い成績を取りたい学生は, 要求された課題について, 講義内容に沿う形で論理的に解答することが望まれます.

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

真面目に講義を聴いて, 自分で考える努力を惜しまない人を望みます.

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内　容: 経営情報論の基礎 ・経営情報システムの歴史的展開(変遷)について簡単に触れる 教科書・指定図書: 遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか):経営情報論の基礎理論(組織論と戦略論の基礎) 内　容:経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念をICTに関連づけて解説する. とくに, 組織論と戦略論について, 情報の視点から概説する. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか):経営情報論の基礎理論(システム理論とネットワーク理論) 内　容:経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念をICTに関連づけて解説する. とくに, システム理論とネットワーク理論について, 情報の視点から概説する. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):経営情報システムとは何か 内　容:会構成主義・社会-物質性の議論に基づく経営情報システムの定義, 人間と人間, さらには人間と人工物との間の情報的相互作用の支援, 経営情報システムの役割などを解説する. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第3章
第5回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術の進展と組織 内　容: ICTの組織にとっての意味についてできる限り言及する. とくに, ICTの基本特性, ハードウェア, ソフトウェアの基礎, 標準技術などを解説する. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第6回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術の進展と組織(続き) 内　容: ICTの組織にとっての意味についてできる限り言及する. とくに, ICTの基本特性, ハードウェア, ソフトウェアの基礎, 標準技術などを解説する(前回の続き). 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第7回	テーマ(何を学ぶか):経営情報システムの設計・開発 内　容:アジャイル(状況適応), DevOps, BizDevOpsなどクラウド環境を前提にしたシステム開発(持続的インテグレーション)・管理を中心に説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章

第8回	テーマ(何を学ぶか):経営情報システムの管理(デジタル・ガバナンス) 内　容:ITガバナンス, 情報セキュリティの基礎的な考え方について説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第9回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術を活用したビジネス・ノベーション 内　容:ICTによるビジネスイノベーション理論について解説します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第10回	テーマ(何を学ぶか):ネット・ビジネス 内　容:電子商取引, サーチエコノミー／アテンションエコノミー, ソーシャルメディア, モバイルビジネスなどについて説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第11回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション 内　容:社会構成主義ならびに社会物質性の議論を全面的に採用した形で, 組織コミュニケーションと情報技術の関係を説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章
第12回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション(続き) 内　容:データコミュニケーションについて, コンビニのレジシステムを中心に説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章
第13回	テーマ(何を学ぶか):ビジネスインテリジェンスとナレッジマネジメント 内　容:ビジネスインテリジェンスとアナリティクス, 組織におけるナレッジの獲得・蓄積と管理, ナレッジマネジメントなどについて概説します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第10章
第14回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と社会・倫理 内　容:情報社会における組織と個人のアカウンタビリティ, 監視社会とプライバシー保護, 個人番号制度などについて説明する. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章
第15回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と社会・倫理(続き) 内　容:AI・ロボットの浸透と職業生活, ベーシックインカム, ICTと持続可能性などについて説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章
試 験	

授業科目名： 財務会計論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 金子輝雄 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・会計学

授業のテーマ及び到達目標

企業における財務内容公表制度（財務会計制度）を学ぶ。特に財務会計論Ⅱではキャッシュ・フロー会計や連結会計といった特殊な論点を取り上げ、会計基準とその基本的な考え方を学修する。到達目標として日商簿記２級１級を意識している。

授業の概要

従来の損益計算中心の会計から企業価値計算の会計へと企業会計が変化している状況を解説し、その結果として新たな流れである、キャッシュ・フロー重視、時価評価志向、リース・減損会計、年金会計および会計制度の国際化等といった論点を順次取り上げてゆく。また、制度・理論の説明だけでなく、２級１級程度の問題演習を通じて理解を深め、実践力を養ってもらう予定である。

授業計画

第１回：ガイダンスとキャッシュ・フローの意義
第２回：キャッシュ・フロー計算書
第３回：有価証券の評価
第４回：デリバティブ取引の会計
第５回：リース会計
第６回：減損会計
第７回：資産除去債務
第８回：年金会計
第９回：配当制限とのれん等調整額
第１０回：M&Aの会計
第１１回：税効果会計
第１２回：為替換算会計
第１３回：連結会計（1）
第１４回：連結会計（2）
第１５回：連結会計（3）
定期試験

テキスト 八田・橋本『財務会計の基本を学ぶ』　第13版　同文館出版　2021年
参考書・参考資料等 桜井久勝『財務会計講義』第22版　中央経済社　2021年
学生に対する評価 確認テスト（50%）と期末試験（50%）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
マクロ経済学	4 単位	専門科目 基礎科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
巽 一樹	**時間:**授業終了後 **場所:**巽研究室	**講義**

〔科目の概要〕

「マクロ経済学」は一国の全体的な経済活動を対象として、国民所得、物価水準、失業率などについて研究する学問である。本科目では、最初に、国内総生産(GDP)の説明から始める。GDP はどのようなものによって構成されており、マクロ経済において、どのような意義を持っているのか説明する。次に、消費や投資の決定理論について説明する。続いて、GDP が決定する仕組みについて、マクロ経済モデルを使って説明する。最初はケインジアン・モデルの紹介から行い、IS―LM モデルと呼ばれる利子率を考慮した分析へと発展させてゆく。

後半の講義では、物価水準を扱った経済モデルを取り上げる。戦後日本の物価水準の推移を概観し、物価水準の変動にはどのような効果があるのか説明した上で、物価水準と失業率にはどのような関係があるのかについて検討する。

講義の終盤では、経済成長の理論や対外経済取引を扱った経済理論について、学生の関心に応じて紹介する。特に、日本を含む先進諸国の経済停滞にはどのような要因があるのか、今後必要とされる経済政策について、検討を行う。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の大きな違いは個別の経済現象を分析の対象とするか、一国全体の国民経済を分析対象とするかにある。「ミクロ経済学」は家計の効用最大化行動や企業の利潤最大化といった個別の経済主体の最適化行動やその相互依存関係を分析対象としている。一方で、「マクロ経済学」は国民経済全体の経済活動を分析対象としている。例えば、国内総生産、雇用問題、物価変動、経済成長などが分析の対象となる。また、マクロ経済モデルは「ミクロ経済学」と比較し、現実を重視しており、政策的な意味を追求する傾向にある。

「マクロ経済学」は「ミクロ経済学」とともに最も基礎的な分野である。これらは応用経済学と呼ばれる「財政学」、「金融経済学」、「国際経済学」、「労働経済学」における分析の基礎付けとなっている。「マクロ経済学」の理解を通じて、基幹科目の修得に役立てられることが期待される。また、マクロ経済モデルを学べば、GDP や物価水準の決定する仕組みについて理解できるようになり、新聞記事やニュースを正しく読み取る力が身に着けられる。官公庁や金融機関に就職したいと考えている学生にとっても、政策効果を分析する手助けとなる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

中間目標はマクロ経済モデルを用いて、経済政策の効果について説明できることである。まず、消費・投資の決定リトンについて理解することを目指す。その次に、マクロ経済モデルにおけるGDP、利子率、物価水準などマクロ経済変数が決定する仕組みについて理解することを目指す。それらの理論をもとに、経済政策によって、それらのマクロ経済変数がどのように変化するのか分析できるようになることを目指す。経済学で扱う数学は難しいと思われがちであるが、講義時における問題演習を繰り返すことによって、着実な理解ができることを目指す。将来、公務員試験を受ける学生にとっても必要な力となる。また、今後履修する基幹科目における理解の助けとなる。

最終目標は今後の日本経済及び世界経済に対する望ましい経済政策について提案できることにある。そのために、練習問題やディスカッションの際に、政策立案のためのトレーニングを行う。具体的には、理論と現実データの整合性に関する確認、身近な社会問題に対するマクロ経済理論を使った分析を行う。これらを繰り返すことによって、マクロ経済モデルに対する理解が深まるともに、各自の希望進路に応じた実力を身に着けることができる。公務員を志望する学生とっては政策効果の分析や政策立案力を高められるようになる。民間企業を志望する学生にとっても、経済動向を適切に把握する助けとなる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕
福田慎一,照山博司（2016）.『マクロ経済学・入門 第5版』.有斐閣

〔指定図書〕
中谷巌,下井直毅,塚田裕昭（2021）.『入門 マクロ経済学［第6版］』.日本評論社

〔参考書〕
N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳)（2017).『マンキュー マクロ経済学Ⅰ入門篇(第4版)』.東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳)（2017).『マンキュー マクロ経済学Ⅱ 応用篇(第4版)』.東洋経済新報社
齊藤誠,岩本康志,太田聰一,柴田章久（2016）.『マクロ経済学 新版』.有斐閣
二神孝一(2017).『マクロ経済学入門 ［第3版］』日本評論社

〔前提科目〕
特になし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
期末試験100%で評価する。期末試験の持ち込み資料は不可とする。

〔評価の基準及びスケール〕

評価	得点比率
A	80%～100%
B	70%～80%未満
C	60%～70%未満
D	50%～60%未満
F	50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
講義中は問題演習及びディスカッションの時間を多く取る予定である。問題演習を通じて、着実な理解を目指していただきたい。疑問点については、講師への質問を積極的に行い、その都度解決していただきたい。また、ディスカッションでは、現実の経済データからどのようなことが起きているのか、どのような経済政策が望まれるのか、積極的に議論をしていただきたいと考えている。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):授業の進め方、成績評価の方法について 内　容:授業の進め方、成績評価の方法、教科書の使い方について説明する。 教科書・指定図書　教科書はしがき
第2回	テーマ(何を学ぶか):GDP(国内総生産)、三面等価の原則 内　容:国民経済計算、三面等価の原則を通じて、GDPの概念について説明する。 教科書・指定図書　教科書第1章
第3回	テーマ(何を学ぶか):「国内」の概念と「国民」の概念、名目値と実質賃金 内　容:GDPデフレーター、消費者物価指数など物価水準の指標について説明する。 教科書・指定図書　教科書第1章
第4回	テーマ(何を学ぶか):ケインズ型の消費関数 内　容:可処分所得と消費の関係について説明する。 教科書・指定図書　教科書第2章
第5回	テーマ(何を学ぶか):ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約と消費 内　容:異時点間にわたる個人の消費と貯蓄の決定に関する理論「ライフサイクル仮説」及び「恒常所得仮説」について説明する。 教科書・指定図書　教科書第2章

第6回	テーマ(何を学ぶか):日本の貯蓄率と国際比較、「家計調査」でみた貯蓄率 内　容:日本の貯蓄率低下の要因について議論する。 教科書・指定図書　教科書第2章
第7回	テーマ(何を学ぶか):企業の設備投資、投資の決定要因 内　容:企業の設備投資と利子率の関係について説明する。 教科書・指定図書　教科書第3章
第8回	テーマ(何を学ぶか):資本の限界生産性、資本の使用者費用 内　容:企業の投資増加による収入と費用について説明し、望ましい資本ストックの決定について検討する。 教科書・指定図書　教科書第3章
第9回	テーマ(何を学ぶか):投資理論、調整費用モデル、在庫投資 内　容:新古典派の投資理論、投資の調整速度、調整費用について説明する。 教科書・指定図書　教科書第3章
第10回	テーマ(何を学ぶか):企業の資金調達、家計の資産選択、株価の決定理論 内　容:企業の資金調達、家計の資産選択について説明し、株価の決定理論について検討する。 教科書・指定図書　教科書第4章
第11回	テーマ(何を学ぶか):トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資 内　容:トービンの q 理論について説明し、現実における投資の動きについて検討する。 教科書・指定図書　教科書第4章
第12回	テーマ(何を学ぶか):貨幣の機能、貨幣の概念、貨幣需要の動機、貨幣需要関数 内　容:貨幣の定義、貨幣の機能、マネーストック統計について説明する。 教科書・指定図書　教科書第5章
第13回	テーマ(何を学ぶか):ハイパワードマネーと貨幣の供給、貨幣量のコントロール方法 内　容:ハイパワードマネー、貨幣の信用創造プロセスについて説明する。 教科書・指定図書　教科書第5章
第14回	テーマ(何を学ぶか):利子率の決定理論、テーラー・ルール 内　容:貨幣市場の需要と供給の均衡について説明し、利子率の決定について示す。 教科書・指定図書　教科書第5章
第15回	テーマ(何を学ぶか):ケインズ経済学の登場、有効需要の原理、乗数理論 内　容:ケインジアン・モデルを用いて、GDPの決定について説明する。 教科書・指定図書　教科書第6章
第16回	テーマ(何を学ぶか):財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線 内　容:財市場の需給均衡を満たすGDPと利子率の組み合わせを表すIS曲線、貨幣市場の需給均衡を満たすGDPと利子率の組み合わせを表すLM曲線について説明する。 教科書・指定図書　教科書第6章
第17回	テーマ(何を学ぶか):IS―LM分析、IS―LM分析と財政・金融政策 内　容:IS曲線、LM曲線を用いて、財政政策及び金融政策の効果について説明する。 教科書・指定図書　教科書第6章
第18回	テーマ(何を学ぶか):景気循環と経済政策、トレンドの変動、IS―LM分析における経済政策の有効性 内　容:マクロ経済において、経済政策がなぜ必要か説明し、財政政策と金融政策の有効性について説明する。 教科書・指定図書　教科書第7章

第19回	テーマ(何を学ぶか):マクロ計量モデルの役割、マネタリズムの批判、非伝統的金融政策 内　容:近年の日本経済における金融政策について検討する。 教科書・指定図書　教科書第7章
第20回	テーマ(何を学ぶか):財政政策の再考、国債の役割と問題点、日本の財政赤字 内　容:政府支出の拡大がもたらすコストと日本の財政赤字について説明する。 教科書・指定図書　教科書第8章
第21回	テーマ(何を学ぶか):国債の中立命題、課税平準化の理論、日本の国債市場の動向 内　容:国際の中立命題について説明し、国債の現実にもたらす影響について検討する。 教科書・指定図書　教科書第8章
第22回	テーマ(何を学ぶか):戦後日本の一般物価水準の推移、インフレーション 内　容:戦後日本の一般物価水準についてその推移を確認し、物価が上昇し続けること(インフレーション)について説明する。 教科書・指定図書　教科書第9章
第23回	テーマ(何を学ぶか):インフレのコスト、ハイパー・インフレーション、デフレーション 内　容:インフレがもたらすコスト、物価が低下し続けること（デフレーション）について説明する。 教科書・指定図書　教科書第9章
第24回	テーマ(何を学ぶか):労働市場と失業、フィリップス曲線、自然失業率 内　容:失業率と物価変動の関係について説明する。 教科書・指定図書　教科書第10章
第25回	テーマ(何を学ぶか):1990年代半ば以降の日本の失業率 内　容:近年の日本の失業率の上昇について説明し、その要因について議論する。 教科書・指定図書　教科書第10章
第26回	テーマ(何を学ぶか):経済の成長、経済成長の源泉、経済成長理論 内　容:新古典派成長理論を用いて、経済成長率がどのようにして決定するのか説明する。 教科書・指定図書　教科書第11章
第27回	テーマ(何を学ぶか):成長会計、収束の概念 内　容:ソローの成長会計について説明し、経済成長の決定要因について議論する。 教科書・指定図書　教科書第11章
第28回	テーマ(何を学ぶか):内生的経済成長理論、経済成長と所得分配 内　容:経済成長の要因の国際比較を通じて、経済成長に関する国家間の格差について議論する。 教科書・指定図書　教科書第11章
第29回	テーマ(何を学ぶか):国際収支表、為替レート、国際通貨制度の推移 内　容:国際収支表の概念について説明し、為替相場制度の歴史的な推移と2つの制度の違いについて検討する。 教科書・指定図書　教科書第12章
第30回	テーマ(何を学ぶか):為替レートの決定要因、経常収支の決定要因 内　容:対外経済取引を含めたマクロ経済学の理論について説明する。 教科書・指定図書　教科書第12章
試　験	筆記試験の実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域企業論Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田　泰亮 IKUTA Yasuaki	**時間:** メールか直接アポイントメントを **場所:** 1305 研究室	**講義**

〔科目の概要〕

「地域に根ざした企業の経営を学ぶ」が本講義のテーマである。地域企業論Ⅰでは「地域と企業の基本的関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造と事業戦略」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。また事例を紹介しながら「地域で企業を経営する」ための基礎的な知識や理論、昨今の地域と企業に関する動向を学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

複眼的思考を身につけなければ、地域のビジネス・リーダー、コミュニティ・リーダーとして活躍することは難しい。本講義は、１年次で学んだ内容を基本としつつ、多くの選択必修科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」であると認識してほしい。本講義で新たな知見を得るとともに、これまで学んだ講義の復習であり、これから学ぶ講義にとっては予習となることが多々あるだろう。関連づけ、反復することで「有効な思考法」として身につく。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

地域企業論Ⅰ，Ⅱの両講義を通じて、以下のような目標とする。

（1）地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための専門用語を理解し「基礎知識」を身につける。
（2）地域企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」のための基本的な理論を身につける。。
（3）地域企業の経営政策、事業戦略についてケース・スタディを行い、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「説明がわかりやすい」「質の高い講義内容」といった高い評価が多数ありました。一方で少数ながらも、これらの高い評価と相反する様な意見もありました。可能な限り対応していきますので、質問や相談は早めに遠慮なくお願いします。なお、シラバスに記載し、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講されている方が見受けられます。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、よく検討し、ご理解いただいた上で決めてください。受講態度の悪い学生（遅刻、欠席）、周囲の迷惑（私語）になるような行為には厳しく対処します。

〔教科書〕

・なし。毎回資料を配布。

〔指定図書〕

・三戸浩、池内秀己、勝部伸夫『ひとりで学べる経営学（改訂版）』文眞堂、2021 年。
・塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理［新版］』有斐閣、2009年。
・M.E.ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論（Ⅰ）（Ⅱ）』ダイヤモンド社、1999 年。
・O.E.ウィリアムソン著、浅沼萬里、岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980 年。
その他、適宜指示、紹介する。

〔参考書〕

〔前提科目〕

「経営学基礎論」を履修し、単位取得していること。また「有効な思考法」を身につけるためには、経済学、財務分析などの基礎知識も必要となる。関連する科目を履修している、あるいは今後の履修科目について計画的に考えたえで、履修することを強く推奨する。特に秋学期の地域企業論Ⅱを受講することも念頭に本科目を受講することを強く推奨する。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

理解度テスト（20%）
課題レポート（30%）複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。
学期末の定期試験（50%）
※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。
無断欠席や課題レポートの未提出については、評価において大幅に減点する。

〔評価の基準及びスケール〕

80%以上　A　　79−70% B　　69−60% C　　59−50%　D　　49%以下 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

ポイントを絞りつつも他の科目との関連性をしっかりと解説し、他の専門科目を深く学ぶ動機づけになるように心がけたい。毎回のテーマ、キーワード、問いやトピックに対して、疑問を持って講義に臨んでほしい。

秋学期の地域企業論Ⅱでは『中小企業白書』を取り上げ、統計データの分析、地域における企業経営に関するケース・スタディ等を行う。こうしたことを通じて、地域企業を取り巻く環境分析、最新の動向を読みとく力、企業経営における戦略策定、地域産業への政策提言を行う力を身につけることを期待している。そのためには、地域企業論Ⅰでの学習内容が基礎となるので、この点も留意して履修してほしい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）：イントロダクション 内　容：　講義内容と進め方について （※講義についての説明を行うのでシラバス持参のこと）
第2回	テーマ（何を学ぶか）：現代社会における地域と企業（1）現状と課題の概観 内　容：地域社会に与える企業の影響を考える。 なぜ、ねぶた祭りに企業は協賛するのか？
第3回	テーマ（何を学ぶか）：現代社会における地域と企業（2）基本概念の整理 内　容：経営経済学的な「地域社会」の理解（地域、市場、産業、政府・自治体、企業、個人）
第4回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（1）地方と都市と企業の歴史的考察 内　容：農村社会と近代都市、工業都市をキーワードに コミュニティとアソシエーション、２つの原理とその重層性について学ぶ
第5回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（2）われわれの生活と地域、企業 内　容：人口問題を中心に地域社会と企業の関係を考える。「極点化社会」「表日本と裏日本」
第6回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（3）現代のコミュニティ問題と地域企業 内　容：労働、雇用機会の変容、地域社会を支える企業、業種転換・市場拡大を試みる中小企業
第7回	テーマ（何を学ぶか）：理解度テストと前半のまとめ 内　容：講義時間内に基礎知識の定着のために理解度テストを実施する。前半のまとめを行う。

第8回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（1）企業の成長・発展段階、企業の存在意義の変容 内　容： 経営体として企業を理解するための基礎的概念(企業、経営、事業)を学ぶ
第9回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（2）様々な企業観と企業の種類 内　容：経済学的、経営学的な企業観、法的制度としての企業、その種類について学ぶ
第10回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（3）利益から考える企業の存在意義 内　容：財務会計学的な企業理解、「利益」の現代的意義(マルクス、ウェーバー、ドラッカー)
第11回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（1）資源、技術、商品、市場からの環境分析 内　容：経営資源や技術、商品、市場の観点から事業を考える。
第12回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（2）産業の立地条件 内　容：M.E.ポーターの理論を中心に、競争要因、競争優位性、産業の立地条件を学ぶ。
第13回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（3）企業間関係論、戦略的提携の視点 内　容： 産業構造を理解するために、組織間関係の理論（企業集団、系列化、戦略的提携）を学ぶ。
第14回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（4）競争のない新たな市場開拓　ブルー・オーシャン戦略 内　容：競争市場から独自の新たな市場空間を目指すための諸概念を学ぶ。
第15回	テーマ（何を学ぶか）：春学期全体の振り返りとまとめ、秋学期に向けての課題 内　容：
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域社会論Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
佐々木　てる	時間：授業開始時に指示 場所：授業開始時に指示	講義

〔科目の概要〕

青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼（都市型の祭り）が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数％に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。

青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年のべ 300 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。

本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。また本年は特に、地域活性化と祭礼についての関係性に注目する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。

こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイディアをより専門的で、地元に根付いた視点から提出するときに役立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワードな視点に生かすこともできりょうになるだろう。

扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会学的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会学的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標：地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭りやイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかに、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。

中間目標：身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会学的な地域社会学的な視点である。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。

また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし

〔参考書〕

下記の本を参照することが望ましい。

宮田登／小松和彦『増補版　青森ねぶた誌』青森市、2016年

河合清子 2010『ねぶた祭 ――”ねぶたバカ”たちの祭典』角川書店

〔前提科目〕

特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に 0～5 点で、評価を行う。また中間時に小テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。
・コメント用紙は一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。
・欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている。
・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。
・授業に関して興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。

〔評価の基準及びスケール〕

・試験 60%、コメント用紙 30%、中間テスト 10%として採点する。
　A～F の評価は本学の規定に準ずる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

　第一回目の授業時に成績評価の方法、講義の進め方、内容、注意事項、変更点について説明する。そのため、受講予定者は必ず出席すること。
　前期講義に関しては、特に青森県、青森市のまつりをテーマとし、具体的な日常生活と関連したものを扱う。こういった日常の話題を自分の出身地の文化・風習や、日常生活に結びつけて考えること、すなわち比較できる能力を求めている。また事例を別の事例に応用して、文化発信、ビジネスチャンスなどに結びつけられるか常に考える力が必要といえる。本講義では受動的に、教科書的なことを学ぶのではなく、自らの想像力と発想力をより豊かにするという考えで授業の取り組んでほしい。
　なお担当者の専門領域は「社会学」であり、社会学的な視点を理解する力も求められる。そのうえで、経営、経済学との違いを理解し、応用できるよう自らの力で考える姿勢を求める。

〔実務経歴〕

　なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか)：　地域と向き合う 内　容：　ガイダンス　地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：青森文化を考える視点：グローカル文化を考える 内　容：　地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローカルな視点を考える。 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：祭りとは何か：基本知識① 内　容：基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：祭りとは何か：基本知識② 内　容：現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等ついての意味づけを考えていく。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：日常文化と祭礼① 内　容：都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。比較社会学的な視点を重視し、他の祭礼との比較も考える。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)：日常文化と祭礼② 内　容：青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。 教科書・指定図書

第7回	テーマ(何を学ぶか):日常文化と祭礼③ 内　容:前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ、小テスト。 内　容:前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動①:地域メディアとねぶた 内　容:ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。またねぶたを取りあげるメディアに注目する。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動②:ねぶた祭りを支える人々、組織 内　容:地域活動を考える第二回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動③:　他の祭礼との比較 内　容:前回までの地域社会の活動を踏まえた上で、青森市以外の地域の祭礼との比較を行う。特に日本各地の祭礼が、どのように地域と結びつきながら開催されているかを学ぶ。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設①:ねぶた師という仕事 内　容:この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設②:造形物としてのねぶたアート 内　容:前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は特にねぶた師の技術に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているか、さらには新しいアートを生み出しているかを考える。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設③:文化の外部化 内　容:地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には首都圏で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、青森との比較を行う。これによって「祭」の文化としての役割を考える。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の未来にむけて。 内　容:講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書
試　験	